

第15回 日本市民安全学会秩父大会

市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ

セーフコミュニティ[SC]で 『つながる』『はぐくむ』『とどける』 安全・安心のかたち

秩父市SC国際認証2周年記念 セーフコミュニティで創るこれからのまちづくり



2017年11月25日(土) * 10:00-16:40 * 秩父宮記念市民会館

主催 秩父市セーフコミュニティ推進協議会 / 秩父市 / 日本市民安全学会

後援 警察政策学会市民生活と地域の安全創造研究部会 / (株)映学社

秩父市 SC 国際認証 2 周年記念

セーフコミュニティ（SC）で
『つながる』『はぐくむ』『とどける』
安全・安心のかたち

大会趣旨

「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」

秩父市ＳＣ国際認証２周年記念：セーフコミュニティで創るこれからのまちづくり

第１５回日本市民安全学会秩父大会

１ 企画趣旨

秩父市セーフコミュニティ推進協議会・秩父市・日本市民安全学会は、秩父市ＳＣ国際認証２周年と秩父市民待望の芸術文化創造拠点「秩父宮記念市民会館」の開館記念を祝し、「市民安全・安心フォーラム２０１７ in ちちぶ」を開催することになりました。

本フォーラムは、ＳＣ国際認証都市 秩父市が、市民会館の３つの基本コンセプト「つながる」「はぐくむ」「とどける」を、これからの秩父の安全文化創造の基本として将来にわたり市民の安全・安心の実現のため、世界基準の安全・安心なまちづくり「セーフコミュニティ（以下ＳＣという。）」を発展させていくことを祈念し、市民の方々と共に祝い誓い合うことを目的とした大会です。

２ 求められる地域特性に即した具体的・実践的な安全・安心のまちづくり

ところで市民生活の安全環境をめぐっては、近年、災害情勢や、地域社会、生活環境の急激な変化に伴い、安全・安心を脅かす危険や不安のかたちも大きく様変わりしています。これらの環境変化を踏まえつつ、かつ、地域特性に即したＳＣによる「具体的・実践的な安全・安心のまちづくりの創造のあり方」が求められています。

このため、本フォーラムでは、秩父市におけるＳＣの活動を基軸に、幅広い観点から身近な安全・安心を見つめ直し、ＳＣによる「より質の高い安全・安心なまちづくり」のあり方について、市民安全啓発映画祭、記念鼎談、分科会、全体報告会を通じて、各界の有識者ととともに地域の課題について議論を深めてみたいと思います。

目 次

■大会趣旨

□市長挨拶	1
□日本市民安全学会会長挨拶	3

■プログラム

□第1部 市民啓発映画祭	8
--------------	---

□第2部 記念鼎談

鼎談1	1 1
-----	-----

鼎談2	1 3
-----	-----

鼎談3	1 5
-----	-----

□第3部 分科会

第1分科会 SCで『つながる』安全・安心の創造	1 7
-------------------------	-----

第2分科会 SCで『はぐくむ』安全・安心の創造	2 6
-------------------------	-----

第3分科会 SCで『とどける』安全・安心の創造	3 4
-------------------------	-----

□第4部 全体報告会

「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」

■資料

□ 秩父市セーフコミュニティとセーフスクールの概要	4 4
---------------------------	-----

□ 秩父市セーフコミュニティとセーフスクールのあゆみ	4 7
----------------------------	-----

□ 日本市民安全学会のあゆみ	4 8
----------------	-----



ごあいさつ

市民安全・安心フォーラムの開催にあたり

市民安全・安心フォーラム大会長
セーフコミュニティ推進協議会会長
秩父市長 久喜邦康

秩父市は、人口約6万5千人、面積577.83平方キロメートルで、埼玉県の約6分の1を占めています。周囲に山岳丘陵を眺める盆地を形成しており、市域の87%を森林が占め、豊かな自然環境と伝統文化が継承された魅力ある地域です。また、多くの祭りや観光名所があり、最近ではアニメや映画の舞台として描かれたり、テレビCMで紹介されるなど、年間約530万人もの観光客が訪れる観光文化都市です。

安全・安心なまちづくりに関しては、市の重要施策に掲げており、秩父市では従来から町会（自治会）をはじめ消防団や交通安全協会など様々な組織や団体が、地域の安全・安心のための活動を行ってまいりました。

しかし、一方で土砂災害や雪害の危険性が高い地域であること、また高齢化率が高いため、特に高齢者のケガや事故等の防止が重要となるなど、様々な課題が存在していました。

そのため、これから将来に向けて、当市が「ずっと住み続けたいまち」として発展していくためには、「安全・安心」ということが重要なテーマであり、当市にとって最適な方法であるセーフコミュニティの手法を取り入れ、安全で住みやすい安全・安心なまちを目指しています。

セーフコミュニティとは、「事故やケガは偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防することができる」との理念のもと、科学的なデータに基づくプログラムと、地域・行政・家庭・学校などの「横断的な連携・協働」による安全・安心なまちづくりです。

秩父市では、2012年9月にセーフコミュニティの取り組み宣言を行い、当市の7つの課題である「子どもの安全」「高齢者の安全」「自殺予防」「自然の中での安全」「犯罪の防止」「災害時の安全」「交通安全」の対策委員会を立ち上げ、市民の皆様とともに共助による安全なまちづくりを行ってきました。

2015年11月には、これらの取り組みが世界レベルで認められ、WHO（世界保健機関）が推奨するセーフコミュニティの国際認証を取得することができました。

当市にとって、この国際認証の取得は一つの大きな成果となりましたが、安全で安心して暮らせるまちづくりを実現するための一つの通過点であって、更なる安全・安心なまちづくりは認証してなおその継続が求められ、現在、再認証に向けて高いレベルでの取り組みを実践・継続しているところでございます。

さて、秩父市では、セーフコミュニティの取り組みを、将来にわたり一層強力に推進することを決意して、2016年3月にセーフコミュニティ推進条例を制定しました。議員提出によるセーフコミュニティの条例が可決されたのは日本で初めてであり、この条例制定を契機に、議会や市民の皆様と手を携えながら、「ずっと住み続けたい日本一安全・安心なまち」を目指して、セーフコミュニティの取り組みに邁進していく決意でございます。

今回、開催いたします「市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ」は、安全・安心なまちづくりに携わる全国の関係者の皆様とともに、セーフコミュニティの取り組みや成果などを

学び合うことにより更なるセーフコミュニティの推進と、地域の安全・安心の質を高めていくことを目的としています。

この機会を通じ、皆様とともに、秩父市のセーフコミュニティの取り組みをより効果的なものとし、安全・安心なまちづくりを、確たるものにしていきたいと考えています。

セーフコミュニティを始めての成果

人身交通事故件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

280 件



218 件

22.1%減少

刑法認知件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

474 件



363 件

23.4%減少

山岳遭難件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

34 件



27 件

20.6%減少

自殺者数（厚生労働省データ）

2013年（SC取組前）

2016年

20 件



9 件

55%減少



ごあいさつ

「『つながる』『はぐくむ』『とどける』」に寄せて

日本市民安全学会会長

石附 弘

御祝いと御礼

まずもって、秩父市セーフコミュニティ（ＳＣ）国際認証２周年記念、こころからお祝い申し上げます。また、秩父市民待望の芸術文化創造拠点「秩父宮記念市民会館」の開館おめでとうございます。本大会には、ＳＣのご指導をされた白石陽子先生、ＳＣ推進自治体の厚木市や箕輪町、豊島区の皆様、また、全国から日本市民安全学会の会員も参加を頂いております。ありがとうございます。

日本市民安全学会は、各地の地方自治体との共催等により市民の生活安全等の啓発普及活動を行ってまいりました。この７月には、富山市において大会を開いたところであり、秩父市の大会は１５回目の大会になります。歴史と文化に育まれ、そして自然の豊かさに恵まれたこの秩父市において、このような大会を行うことができたことを、日本市民安全学会を代表して御礼申し上げます。

主語も目的もない「『つながる』『はぐくむ』『とどける』」を考える大会

今回のフォーラムは、市民会館の基本コンセプト『つながる』『はぐくむ』『とどける』という大変素晴らしいキーワードを拝借し、「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心」を取り上げました。普通このような大会では、子ども安全とかいじめ防止とか会議の目的が明確です。が、今回は違います。『つながる』『はぐくむ』『とどける』には、主語も目的も、つまり、WHO（誰が）、WHOM（誰と）、WHAT（何のために）がありません。私どもの学会のモットーは「共に考え、共に学び、共に行動する」ですが、これも誰と何を何のために考えるのかは白紙です。共に考えること自体が重要だといっている。これは、一体、何を意味するのでしょうか？

コミュニティビルディング

近年、アイスブレイキングとかコミュニティビルディングという社会技術の開発が進んでいますが、どうすれば『つながる』ことができるか、『共に考える』ためには何をすれば良いか、その社会技術を習得しないと先へ進めない。こういう観点からＳＣを見ると、その魅力が倍增することでしょう。

「コミュニティ」（異質の人々の集まり）の中で、共通点（課題や目標、価値観）を探し、「コミュニティの絆（結び目）」を再構築しようとするものです。

「コミュニティ」（COMMUNITY）の原義も目標がない

淵源をたどれば、「コミュニティ」の言葉は、ギリシャ語の「ともに」と「たたかう」の合成語と言われ、それ自体、何に対してどう戦うのかは白紙です。つまり、安全環境の変化があれば、いつでも最適対応できたための「創造的な組織構築原理」というべきものではないでしょう

か。

つまり、情勢や環境に変化に応じて、『つながり方』『はぐくみ方』『とどけ方』を工夫し、地域特性に即した「具体的・実践的安全・安心のまちづくりを創造」していくことが可能であり、地域社会（人間）開発プログラムのツールとして普遍性をもっているのが、この3つのキーワードであり、それ故に、成長エネルギー（運動力学）を有するのではないかと考えています。

SCの活動原理に通ずるところが多々あると思います。本フォーラムが、その『思考法と行動様式』を学ぶきっかけになれば幸いです。

顧みれば、今世紀に至り、安全問題は、地球規模においても、国家規模においても、私たち市民生活の場においても、最重要の課題として急浮上しました。市民生活の安全を脅かす犯罪、事件、事故等の社会事象が一層複雑化と深刻化の度合いを深め、市民の生活に大きな損害と不安を与えています。市民生活の安全問題は、今や一人ひとりの市民にとって大きな関心事であり、国や自治体にとっても社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

もとより市民生活の安全・安心問題は、市民・警察・自治体がまさに三位一体となり、これに関係する安全問題の専門家、関係業界はじめマスコミなどそれぞれの関係者が相互に連携・協力・協働して問題解決を図っていくことが必要不可欠です。

私たちの学会は、「市民の安全」をめぐる現状および将来のあり方を、市民生活の現場から捉え直し、今後とも「市民が主役の安全・安心まちづくり」のため、市民安全学の発展・普及に微力ながら尽くしてまいりたいと考えています。

皆様が苦勞して獲得されたSC国際認証は、WHOの推奨する世界基準の安全安心まちづくりとして世界的に注目されている取り組みですが、特に我が国においては、昨今のコミュニティをめぐる諸課題が山積する中、これまで以上にSCの手法の先進性が再認識され、コミュニティをめぐる諸課題の具体的・実践的課題解決手法としてその真価を発揮するであろうことを、私は確信しています。

プログラム

第1部 10:00～12:00「市民安全啓発映画祭」

10:00～11:00（大ホール）

- 1 記念上映 小林綾子主演 『パパは風になった』 文部科学省選定
(財)埼玉県交通安全協会推薦

作品紹介 「秩父の札所」を舞台とした映画

- 2 特別記念講演 「映像の中で安全安心をどう描くか」 映画監督 高木裕己氏

11:00～12:00（大ホール）

安全啓発映画上映と解説（日本市民安全学会 協力映画）

- 1 『事件事故から人を守る 町を守る～警察署のはたらき』
H29 教育映像祭優秀作品賞受賞 文部科学省選定 元警視庁管理官 山下弘忠氏
- 2 『火災から人を守る 町を守る～消防署のはたらき』
文部科学省選定 前横須賀市北消防署副署長 小澤光男氏
- 3 『防げるか？認知症～注目される食の力』
昌医会 葛西昌医会病院 村瀬恵子氏

第2部

時 間	内 容
13:00～ 13:50	記念鼎談 「セーフコミュニティ（SC）で『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」 ・久喜邦康秩父市長 ・白石陽子日本セーフコミュニティ推進機構代表理事 ・石附弘日本市民安全学会会長（モデレーター）

第3部 分科会（3会場、3分科会）

13:50	－ 休憩（13:50～14:05） －	
14:05～ 15:35	第1分科会 《会場：ホール》	
	《テーマ》 「SCで『つながる』安全・安心の創造」 《座長》 山本俊哉	特別講演 「セーフコミュニティがつなげる安全・安心まちづくりの協働」 山本 俊哉氏 【明治大学理工学部建築学科教授 （一社）子ども安全まちづくりパートナーズ代表理事】
		「データが繋げるSC市民安全のこころ」 ～秩父市市民アンケート調査結果と活用 富尾 淳氏 【東京大学大学院 医学系研究科 講師】
		【話題提供】「避難計画から地区防災計画へ繋がる地域防災」 高野 幸基氏 【前久那町会連絡協議会長】
		つなぐ・つながる セーフコミュニティステーション「区民ひろば」 八巻 規子氏 【豊島区地域区民ひろば課長】

	《副座長》 櫻田秀美 高橋幸太郎	【話題提供】 「通学路の動物デザインが繋げる子どもの安全・安心」
		櫻田 秀美氏 【D&D スタジオ代表】
		「山の案内板で繋がる山の安全（案内板の整備と安全登山の呼びかけ）」
		高橋 幸太郎氏【自然の中での安全対策委員会 委員長】
		S Cで繋がる分野横断的な安全・安心の取り組み（今後の課題）
		宮前 房男氏 【秩父市危機管理課（S C担当）次長】

時 間	内 容	
14:05～ 15:35	第2分科会 《会場：けやきフォーラム A,B》	
	《テーマ》 「S Cで『はぐくむ』安全・安心の創造」 《座長》 村瀬恵子 《副座長》 倉持隆雄 金子理恵子	特別講演 「どうはぐくむ「鍵と指紋」を守るころ」 ～レンズで盗まれるあなたの「鍵と指紋」新情勢
		富田 俊彦氏 【防犯設備士協会 特別顧問】
		「どうはぐくむ『ヘルメット・反射材』と交通安全運動」
		金子 理恵子氏 【交通安全対策委員会 委員長】
		「どうはぐくむ犯罪防止運動（最近の犯罪情勢と対策）」
		安部 一夫氏 【犯罪の防止対策委員会（秩父警察署生活安全課長）】
		「どうはぐくむ防犯パトロール・鍵かけ運動（不審者対策を含む）」
		富田 陽子氏 【犯罪の防止対策委員会 副委員長】
		「どうはぐくむ地域の絆、安全・安心のころ」 ～厚木市における不審者から子供を守る取り組み
		倉持 隆雄氏 【厚木市セーフコミュニティくらし安全課S C指導員】
		【話題提供】 「地域、防災、災害支援に対して、メーカーが発揮する『つながる、はぐくむ、とどける』ちから」
		櫛間 香奈氏 【ハッソー株式会社 マーケティング部マネージャー】
		【話題提供】 「どうはぐくむ高齢者の健康と安全・安心 ～作業療法士としての創意工夫～」
		松岡 公平氏 【らいおんハート整形外科リハビリクリニック統括部長、作業療法士】

時 間	内 容	
14:05～ 15:35	第3分科会 《会場：けやきフォーラムC,D》	
	《テーマ》 「SCが『とどける』安全・安心の創造」 《座長》 西田佳史 《副座長》 堀内裕子 多比羅幸男	特別講演 「ロボットがとどける高齢者の安全で活動的な生活」 ～神戸と昭島の取り組みから 西田 佳史氏 【産業技術総合研究所 人工知能研究センター首席研究員】
		「どうとどける転倒予防対策」 ～自宅内危険個所の啓発と茶トレ・秩父ポテくまくん健康体操の普及 多比羅 幸男氏 【高齢者の安全対策委員会 委員長】
		【話題提供】 どうとどける『介護のかたちとところ』 ～買い物、通院難民を通じて見える地域の課題 福田 英二氏 【白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス 施設長、看護師、ケアマネージャー】・
		「どうとどける自殺予防のかたちとところ」 ～自殺予防標語入り看板の設置とホットスポット対策 竹越 至氏 【自殺予防対策委員会 委員長】
		「どうとどける『いじめ防止』のかたちとところ」 根岸 カ氏 【セーフスクール推進校 秩父第二中学校 教頭】
		「どうとどける『サイバー・ネット空間の子どもの安全』」 菅野 泰彦氏 【全国読売防犯協力会 専任講師】
		「SCの安全安心を地域と次世代に届ける（再認証を願みて）」 ～自治会単位のきめの細かいセーフコミュニティ安全・安心活動等 向山 静雄氏 【箕輪町SC推進協議会アドバイザー】
		総括コメント 堀内 裕子氏 【シニアライフデザイン代表】

第4部 全体報告大会

15:35	- 休憩（15:35～15:50 会場移動-15分）		
15:50 ～ 16:40	1 全体報告会と討論 日本市民安全学会会長（モデレーター） テーマ 「セーフコミュニティ（SC）で『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」 ・特別講演者（2分）および3分科会座長から論点・内容紹介（3分） 計5分×3 ・討論 ・日本セーフコミュニティ推進機構からのコメント 白石陽子氏 2 閉会のご挨拶に代えて（総括） 藤岡一郎名誉教授	15分	25分
		2分	5分

第1部 映画祭

第15回日本市民安全学会 秩父大会
市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ
秩父市セーフコミュニティ国際認証2周年記念

2017年11月25日(土)

市民安全啓発映画祭(映画の集い)

— 秩父宮記念市民会館 開館記念 特別企画 — 会場: 秩父宮記念市民会館 大ホール

10:00~ 記念上映『パパは風になった』 & 監督記念講演

■文部科学省選定(社会教育・青少年・成人教育・地域社会生活・国際社会・国際化)
■推薦: 秩父市・埼玉県交通安全協会
交通安全教育映画【2017】DVD付



主 演: 小林綾子
制作統括・監督: 高木裕己
挿 入 歌: 新井満『千の風になって』

文部科学省選定 / 一般財団法人 埼玉県交通安全協会 推薦

交通安全教育映画

『パパは風になった』(約30分)



秩父礼所を舞台にした、小林綾子主演の感動の映画!

一人の人間の瞬間の不注意が招いた悲劇…
夫の供養のために、妻と子が行う巡礼の旅
秋の山々の美しい風景と
挿入歌『千の風になって』の
メロディーが
重なっていく…

10:30~
特別記念講演
(約20分)

映像の中で安心安全をどう描くか

映画監督 高木裕己氏

(株)映学社代表取締役。防火、防災、交通、人権など、命に関わるテーマを取り上げた作品の実績は多く、文部科学大臣賞(6作品)のほか、スペイン、ハンブルク(ドイツ)、ジャカルタ(インドネシア)、ロサンゼルス(アメリカ)などの国際映画祭で金賞、銀賞、特別審査員賞などを多数受賞している。

11:00~12:00 特別上映「映画しか伝えられない『公助・共助・自助』の今」

社会教育映画

解説: 山下弘忠氏(元警視庁鑑識課管理官/学会会員)

『事故や事件から 人を守る 町を守る 警察しよのはたらき』(約18分)

子供に向けて、警察署や地域の団体がやっている、暮らしを守るための活動の今を、詳しく紹介します。

監修: 石附弘(日本市民安全学会会長)

文部科学省選定 / 2017年教育映像祭優秀作品賞受賞



社会教育映画

解説: 小澤光男氏(関東学院大学法学部非常勤講師/学会会員)

『火災から 人を守る 町を守る 消防しよのはたらき』(約20分)

火災から人々の暮らしを守るために行っている、消防署や地域の団体の活動の今を、わかりやすく紹介します。

監修: 小澤光男(前横須賀市北消防署副署長)

文部科学省選定



社会教育映画

解説: 村瀬恵子氏(葛西昌医会病院医療支援課地域連携課長/学会会員)

『防げるか? 認知症 注目される食の力』(約18分)

認知症予防に注目されている、食の力。食の役割や、調理・食事介助の仕方を、最新の知見をまじえながら、具体的に紹介します。

監修: 中村育子(医療法人社団福寿会福岡クリニック管理栄養士/日本在宅栄養管理学会副理事長)



主催: 秩父市セーフコミュニティ推進協議会、秩父市、日本市民安全学会、映学社

第2部 記念鼎談

秩父市セーフコミュニティ認証2周年記念事業

「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」

企 画 趣 旨

本鼎談は、秩父市のセーフコミュニティ（SC）国際認証2周年および秩父市民待望の芸術文化創造拠点「秩父宮記念市民会館」の開館を記念し、秩父市および秩父市民が、新市民会館の「つながる」「はぐくむ」「とどける」という3つのコンセプトを安全文化創造の基本として、将来にわたり市民の安全・安心の実現のため世界基準の安全・安心なまちづくりを発展させていくことを誓い、市民の方々と共にその「意義を考える場」として企画されました。少しでもご参考になれば幸いです。

ご出演の方々

久喜 邦康氏

秩父市長

白石 陽子氏

一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構代表理事

石附 弘氏（モデレーター）

日本市民安全学会会長

「秩父宮記念市民会館」



つながる

誰もが集い、交流が生まれる文化を通じて、世代を超えてつながる

はぐくむ

次世代を担う人材を育てる新たな文化芸術を創り出す

とどける

地域ならではの文化資源を引き継ぐ秩父の新しい文化を発信する

秩父市セーフコミュニティとこれからの安全・安心なまちづくり



秩父市長 久喜 邦康

市民安全・安心フォーラム大会長
セーフコミュニティ推進協議会会

1. 安全・安心なまちづくりとセーフコミュニティの役割について

まちづくりの視点からみると、秩父市は従来から地域の活動が非常に活発に行われており、町会をはじめ消防団や交通安全協会など様々な団体が、安全・安心に関する取り組みを行っていました。しかし、全国どの自治体でも安全なまちづくりのために日々取り組んでいるにも関わらず、事故やケガは様々な事象から発生しており、よりレベルの高い安全・安心なまちづくりが求められている状況にありました。

こうした中、「事故やケガは偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防することができる」との理念のもと、科学的なデータに基づくプログラムと、市民の皆様や様々な組織・団体が行政と連携して共助によるまちづくりを行うセーフコミュニティの手法を取り入れることで、課題の解決につなげることができないかと考えました。

平成24年のセーフコミュニティの取り組み宣言から秩父市の課題を解決するための7つの対策委員会を立ち上げ取り組みを実施し、少しずつですが数字的な成果も出てまいりました。

当市にとってセーフコミュニティの手法は、安全・安心なまちづくりのための最も有効な手法であるとともに、重要な役割を担っています。

2. セーフコミュニティと3つのコンセプト「つながる」「はぐくむ」「とどける」について

秩父宮記念市民会館は、市民の文化的向上と福祉の増進を図り、そして、市民をはじめ多くの方に愛され親しまれる施設を目指し、2017年3月26日、開館の日を迎えました。

市民会館の3つの基本コンセプトである「つながる」、「はぐくむ」、「とどける」は、様々な人との交流を通じて、新たな芸術や文化を創造し、秩父から発信していくという意味があります。

この3つのキーワードは、セーフコミュニティにおける安全文化創造の原理と結びついています。安全に関する活動を行っているすべての関係者がセーフコミュニティの名のもとに「つながる」、また、セーフコミュニティの取り組みを推進し、安全・安心な心を「はぐくむ」、そして事故やケガの予防活動を「とどける」、これらのキーワードは、まさに安全・安心なまちへと結びつくものです。

今回開催するフォーラムは、秩父宮記念市民会館の開館記念とあわせて、この3つのキーワードからセーフコミュニティの活動を見つめ直し、将来にわたり市民の皆様の安全・安心を実現するために、セーフコミュニティを発展させていくことを祈念し、また誓うことを趣旨とした大会にしていきたいと考えています。

3. これからのまちづくりについて

秩父市セーフコミュニティは、2015年11月に国際認証を取得しました。このことは、秩父市が行っているセーフコミュニティの取り組みが世界基準で認められたということですが、取得することが目的ではなく、より一層の安全・安心なまちづくりを推進していくことが求められています。

セーフコミュニティ活動をより一層協力に推進していくためには、

- ①「従来から行っている安全対策とセーフコミュニティの取り組みの違いを目に見える形で示していくこと」
- ②「取り組み結果を検証し、検証結果に基づく新たな取り組みを研究していくこと」
- ③「活動状況や成果を市民の皆様へ周知し、市民の皆様とともに高い意識で取り組みを実施していくこと」であると考えています。

このことは、先日行われましたセーフコミュニティ国際会議セルビア大会でも、私が世界大会の場で主張してきたところです。

そして、今後当市は、将来推計人口から試算すると、少子高齢化が激しくなり働く世代の人口が減少してまいります。そのため、安全な地域社会を維持することが難しくなることが懸念され、「共助」によるまちづくりが重要となってきます。当市におけるセーフコミュニティの取り組みは、まさに共に助けあう「共助のまちづくり」として、これからのまちづくりに求められ、皆様とともに地域に根付いた継続的な活動へと定着していくことが求められています。

メモ欄

【プロフィール】久喜邦康

日本医科大学大学院卒業。医学博士。昭和63年に秩父市にて久喜医院を開業。

平成18年に秩父市議会議員をへて、平成21年5月から市長を務める。就任以来『一步一步 前へ前へ 確実に』市政進展に努め、秩父地域1市4町で推進する「ちちぶ定住自立圏」により、水道の広域化や医療・福祉の充実、おもてなし観光などで大きな成果をあげる。

新市役所庁舎、新市民会館の建設、広域事業として新火葬場の建設など、50年、100年を見据えた大事業を実施した。

「豊かなまち環境文化都市ちちぶ」を将来都市像として、日本一しあわせなまちづくりに奔走する。

秩父市では、2014年から実践型地域雇用創造事業に取り組んでいる。

日本におけるセーフコミュニティ活動と 秩父市への期待



白石 陽子

(一社) 日本セーフコミュニティ推進機構代表理事
立命館大学 衣笠総合研究機構 研究員

1. 日本におけるセーフコミュニティのあゆみ

日本では、2006年に京都府亀岡市がセーフコミュニティ（SC）を公式に導入して以来、SCに取り組む自治体（その一区域を含む）が増えています。2017年10月現在、16自治体及びその一部の地域（以下、「コミュニティ」）がSCに取り組んでおり、そのうち秩父市を含む14のコミュニティがSCとして認証されています。

日本は、従来から安全に関する地域の活動が活発であり、その結果、世界でも有数の安全な国として評価を受けています。そのようななかで、2005年ごろ、私どもがSCを紹介した際にはSCの意義を理解いただけないことも珍しくありませんでした。「すでにいろんな安全活動が地域で行われている」「地域の防犯パトロールが活発だ」「行政は、学校などのアスベスト対策は全て済んでいる」などの理由から新たにSCを導入する必要はないというコメントをいただくことも多くありました。しかし、SCは、既存の取組みと対峙するものではありません。むしろ、日本のようにしっかりと地域の活動が機能しているところこそ、SCを導入することによってより効果的・効率的に地域課題を解決できるようになる、いわば「ツール（道具）」なのです。

地域の活動は、時として「今までずっとやっていたから」という理由で続けられていたり、地域の実情を必ずしも反映させているとは限らないにもかかわらず、メディアに影響されて取り組んでいるものもあります。急速に地域の状況が変わるこんにち、その変化に対応することなく活動を続けていても、地域の安全は高くなりませんし、場合によって維持すらも難しくなります。

近年では、地域課題の多様化、多層化によって、地方行政や地域の担う役割が大きくなっています。その一方で、行政も自治会・町内会などの地域組織も人手不足・資金不足などの課題を抱えており、様々な面で負荷は拡大し、限界を感じておられます。そのようななか、限られた条件のもと、重点的に取り組むべき問題点を把握・共有し、分野や組織を超えて協働で取り組む仕組みを構築することは、SCだけにとどまらず、まちづくりのあらゆる面にも活用できると信じています。

そのようななか、SCを安全だけでなく、地域の諸課題の解決能力の向上つまり「地域力」の向上のツールとして着目されたのが、現在SCに取り組む16コミュニティです。ある自治体のSCご担当者が、視察にこられた方に「どうして、日本では16コミュニティしか取り組んでいないのですか」と聞かれたそうです。その質問に対し、そのSCご担当者は、「なぜなら、（行政が主導的な立場にある日本では）SCがなくても『行政』は回っているからです。そのなかで、SCに取り組むコミュニティは、行政や地域が将来の「まち」のあり方を考えたとき、これからは地域が一緒になって問題を解決する仕組みが必要だと判断したのです。」と答えたと聞いています。日本においては、SCは、「認証」だけが目的ではなく「まちづくりのツール」であると理解いた

だいていることはとてもうれしく感じています。日本に SC が導入されてから 10 年間で取組むコミュニティが 16 までに増えたのは、これらのコミュニティがしっかりと SC を理解し、取組みを積み上げてこられたからにほかなりません。

2. 秩父市の取組への期待

秩父市は、2015 年に日本で 11 番目の SC として認証されました。秩父市には、大きな特徴があります。まず、地域の活動が従来からとても活発な点です。加えて、地域のきずなが強いことも特徴的です。日本の多くの地域では、地域の絆の希薄化が問題となっているなか、秩父市の自治会への加入率は非常に高い状況にあります。また、市民の皆さんの秩父への思いも深く感じています。これらは、市民のみなさんの「秩父市は私たちのまち」という意識、つまり「オーナーシップ(当事者という意識・責任感)」が強いことを示しています。これは、まちづくりにおいては、大都市部では得られないメリットです。この「オーナーシップ」は、まちづくりにおいて力強いエンジンとなります。

従来から様々な安全やまちづくりに関する取組みが進められているという基盤があり、強いオーナーシップがエンジンとなって SC というツールを使いこなせれば、変化の大きいこんにち、様々な問題を地域で乗り越えられる力（地域力）を大きく伸ばせると信じています。実際、秩父市においては、SC の重点課題としている分野において成果が見られるようになっており、心強く感じています。

これからも引き続き、より安全・安心な、住みよい秩父市に向けて SC を最大限活用いただき、全国、世界に秩父モデルを発信していただきたいと願っています。

メモ欄

【プロフィール】 白石陽子

アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合事務局長。セーフコミュニティ公認認証審査員。韓国亜州（アジョー）大学医学部客員教授。

立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ（SC）」に出会い、研究プロジェクトチームの一員として SC 発祥の地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所（医科大学）に派遣される。帰国後は、日本の地方自治体が SC に取り組む意義と限界をテーマに研究を進め、博士号を授与される。

2011 年には、これまでの SC 活動に関する研究及び支援の実績が認められ、セーフコミュニティ支援センターとなる「一般社団法人 セーフコミュニティ推進機構」を立ち上げ、同年 12 月には、学校版 SC ともいわれる「インターナショナルセーフスクール（ISS）」の支援・認証センターとしても認証される。

2017 年 11 月現在、国内で SC に取り組む 16 自治体と ISS に取り組む 30 の保育所・小学校・中学校・高等学校を支援しながら、SC 及び ISS の研究を続け、国外については、国際セーフコミュニティネットワークの理事として、また公認認証審査員として、SC 及び ISS 活動の支援及び認証審査を行っている。

セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心



石附 弘 (モデレーター)

日本市民安全学会会長

1. 素晴らしい3つのキーワード 『つながる』『はぐくむ』『とどける』
 - ・芸術文化創造拠点：「芸術・(安全・安心) 文化・交流・創造・発信の『場』」
 - ・『つながる』『はぐくむ』『とどける』の3点セットがなければ、安全・安心・健康なし
2. セーフコミュニティ (S C) 活動においても重要なキーワード
 - ・秩父市：H 2 7 年 1 1 月、WHO (世界保健機関) 推奨の S C 国際認証を取得＝安全・安心に「ずっと住み続けたいまち」への礎づくり
 - ・議員提出による初の「セーフコミュニティに関する条例」が可決
 - ① S C とは、すべての安全関係者が、『つながる』仕組み：組織横断的取組み・協働、人と人 (官官、官民、民官、民民等)、内外の S C 動向の学び合い
 - ② S C とは、コミュニティのこころ (絆) を『はぐくむ』仕組み
 - ・安全意識の向上心をはぐくむ、・データへの関心、科学の眼をはぐくむ
 - ③ S C とは、地域が主体となって安全・安心を、地域全体に『とどける』仕組み
秩父市の茶トレ、災害安全の広がり と 深化 (逃げ地図、自主防災リーダー養成)
3. 不思議 『つながる』『はぐくむ』『とどける』考
 - (1) 主語も目的も書いてない
 - ・WHO (誰が)、WHOM (誰と)、WHAT (何のために)
 - ・同じ構造：「ともに学び、ともに考え、ともに行動する」 日本市民安全学会のモットー
市民生活の安全・安心問題は、これに関係するすべての関係者が「市民が主役の安全・安心 まちづくり」のため、「共に考え 共に学び共に行動する」市民安全学を目指す
 - (2) 『つながる』『はぐくむ』『とどける』・・・普遍的成長エネルギー創造 (運動力学現象)
 - ・安全・安心を脅かす危険や不安の環境変化があっても、『つながり方』『はぐくみ方』『とどけ方』を工夫し、地域特性に即した「具体的・実践的安全・安心のまちづくりの創造」が可能。地域社会 (人間) 開発プログラムのツールとして有効かつ普遍的原理
4. 現場の『気づき』から、『つながる』『はぐくむ』『とどける』を運動に！ (モデル例)
 - ・「森は海の恋人」運動：気仙沼の牡蠣養殖の漁師、畠山重篤氏
気仙沼の青い海が赤く濁り始めた時、その原因が海から 2 0 キロも離れた室根山の森の荒廃にあるといち早く気づき、川が運んでくれる 森の栄養が海の幸を育てる として「牡蠣の森を慕う会」を創設、平成元年、植林運動を始め気仙沼に注ぐ川の上流に木を植える運動を展開、森と海をつなぐ運動を展開。海はしだいに青さを取り戻し、フランスのカキ業者が「ここはカキにとって天国のような海ですね」と絶賛したという。
 - ・それから暫くして、3. 11 大津波 が気仙沼を襲い、畠山さんのカキは全滅。・・・・その後、どうなったのでしょうか？

- ・室根山室根神社の大祭：気仙沼の海の民が、夜明け前の海で海水を汲み、室根神社に運び、その御神水で御神体を浄め、そこから祭りが始まるという。
- ・森林には3つある：「1つは山の森、2つは海の植物プランクトンや海藻の森、3つめは、『流域に住む人の心のなかの森』」（国連表彰の際の畠山スピーチ）
- ・科学的根拠ある運動：この背景には、畠山重篤氏の科学的な分析、世界調査等、エビデンスに基づいた研究があった。

5. 要注意：事件（犯罪）や事故のリスクファクターの結合・悪化エネルギーに！

(1) 『つながる』と困るもの・・・ネット有害情報 オレオレ詐欺 投資詐欺 暴力団

➡ 切断、分断、断絶、解体

(2) 『はぐくまない方がいいもの』・・・・・・非行の芽 いじめの芽 自殺の芽

➡ 根絶、剔抉、芽を摘む

(3) 『とどけて欲しくないもの』・・・・ワンクリック請求書 税金納付書？ 訃報

➡ 受け取り拒否、差し止め、拒絶

＊小事は大事：早期に手を打つことで被害の最少化：『地域の中の気づき』＝SCの秀逸性
組織犯罪インフラ・温床 暴力団対策の基本：入るを制し出るを図る（人・金）
徴税の原則・・・・・・：入るを図り出るを制す

処方箋を間違えると大変です！

メモ欄

【プロフィール】石附 弘

■職歴等：1969年に警察庁入庁後、内閣官房長官（後藤田、小渕両長官）秘書官、警察庁暴力団対策課長（初代）、長崎県警察本部長、防衛庁審議官（防衛交流）等を歴任後、2015.6まで（公財）国際交通安全学会専務理事として14年勤務。

■現在：日本市民安全学会会長、厚木市および豊島区セーフコミュニティ専門委員、警察政策学会市民生活と地域の安全創造研究部会長等。

■SCとの関わり：2003年からWHO推奨セーフコミュニティの調査研究に取組み、2008年厚木市専門委員として市のセーフコミュニティ認証取得を指導、2010年11月国際認証取得（国内3番）および国際会議、また、豊島区の認証取得活動（2012.11国内5番）に参画する傍ら、広くセーフコミュニティ運動の啓発・普及を推進中。

第1分科会《会場：ホール》

セーフコミュニティ（ＳＣ）で『つながる』安全・安心の創造

趣旨

『つながる』には、ＳＣ活動の安全や安心（絆）、データがつなぐ共通の課題やリスクへの関心、住んでいるまちの様々なステークホルダーとのつながり、内外のＳＣ活動など、地域が主役となってコミュニティの安全・安心増進のための叡智、市民生活の質の向上のための日々の市民生活に資するモノや人、情報、あるいは、こころやかたちへのアクセスが含まれます。

分科会では、ＳＣと協働、データ、避難計画から安全計画への発展、区民をつなぐ区民ひろば、デザイン、山の案内板、分野横断的つながりなど、様々な「つながり」について、議論を深めます。

座 長 山本俊哉
副座長 櫻田秀美 高橋幸太郎

1【特別講演】

「セーフコミュニティがつなげる安全・安心まちづくりの協働」

山本 俊哉氏 【明治大学理工学部建築学科教授
（一社）子ども安全まちづくりパートナーズ代表理事】

2 「データが繋げるＳＣ市民安全のこころ」

～秩父市市民アンケート調査結果と活用

富尾 淳氏 【東京大学大学院 医学系研究科 講師】

3【話題提供】

「避難計画から地区防災計画へ繋がる地域防災」

高野 幸基氏 【前久那町会連絡協議会長】

4 つなぐ・つながる セーフコミュニティステーション「区民ひろば」

八巻 規子氏 【豊島区地域区民ひろば課長】

5【話題提供】

「通学路の動物デザインが繋げる子どもの安全・安心」

櫻田 秀美氏 【D&D スタジオ代表】

6 「山の案内板で繋がる山の安全（案内板の整備と安全登山の呼びかけ）」

高橋 幸太郎氏 【自然の中での安全対策委員会委員長】

7 ＳＣで繋がる分野横断的な安全安心の取り組み（今後の課題）

宮前 房男氏【秩父市危機管理課（ＳＣ担当）次長】

セーフコミュニティがつなげる安全・安心まちづくりの協働



山本俊哉

明治大学理工学部建築学科教授
一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ代表理事

1. 安全・安心まちづくりの経緯

安全と安心は別のものであるが、阪神・淡路大震災（1995 年）以降、「自助」と「共助」の重要性が認識され、防災と防犯を関連付けたまちづくりが進められ、両者を併記して「安全・安心まちづくり」と呼称されるようになってきた。神戸市では、安全の推進に関する条例を制定し、防犯と防災と福祉と関連付けて「安全で安心できるコミュニティ」の形成を進めた。

2. 協働のまちづくりにおける大学等の役割

近年、自治体と大学等が包括的な協力協定を締結する事例が増えている。この場合の大学等の役割は、第一に高度教育機関としての人材養成であり、第二に研究開発機関としての成果の地域還元であり、第三に校地等の地域資源の活用である。協働のまちづくりについていえば、地域における基礎的専門的な人材養成であり、計画づくりやその実行の支援であり、外部の中立的な立場からの評価である。

3. セーフコミュニティにおける実践事例

JST（科学技術推進機構）RISTEX（社会技術研究開発センター）の「犯罪からの子どもの安全」領域では、その成果を統合実装として厚木市や豊島区、秩父市等のセーフコミュニティの活動を支援してきた。「安全イメージトレーニング」などの教材提供や市民アンケートの分析支援による活動評価はその実践事例である。このほか、同じ RISTEX の「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」領域の「多様な災害からの逃げ地図づくりを通じた世代間・地域間の連携促進」もそのひとつである。

4. これから期待される行政と大学の協働

最近、様々な分野でソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の醸成の重要性が認識されている。すなわち、「社会的信頼」と「互酬性の規範」と「ネットワーク」による人々の協調行動を活発化することにより社会が発展するという概念である。こうした認識のもと、住民と行政、NPO と企業の相互のパートナーシップ（連携）の関係を超えて、マルチ・ステークホルダー・エンゲージメント（多様な利害関係者の協働）による推進が重要とされている。行政と大学はそれらの一員であり、そのシステムをつくり、動かす重要なプレイヤーとしての役割が期待されている。

データが繋げる SC 市民安全のこころ



(秩父市市民アンケート調査結果と活用)

冨尾 淳

東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学

1. はじめに

地域の安全に対する住民の認識やけが等の予防に対する対策の現状を把握することは、セーフコミュニティ（SC）活動を推進する上できわめて重要である。本報告では、秩父市が 2016 年に実施した「安心・安全なまちづくりに関する市民意識調査アンケート」について、主な結果を示すとともに、結果から導かれる今後の SC 活動の可能性について検討する。

2. 方法

本調査は、18 歳以上の秩父市民から地区単位で無作為抽出した 3,000 名を対象に、自記式質問票（郵送法）を用いて 2016 年 9 月に実施された。回答者数は 1,413 名（47.1%）であった。主な調査項目は、SC 活動の認知、地域活動への参加の状況、事故やけが、犯罪、災害に関する不安や対策の状況などであり、これらについて回答者の割合を記述、分析した。

3. 結果

2016 年の調査の回答者は女性が 742 名（54%）、65 歳以上が 620 名（44%）、地区別では中央地区が 521 名（37%）で最も多かった。

SC 活動について「よく知っている」、「少し知っている」と回答した人は 18%であったが、SC 活動に「とても関心がある」、「少し関心がある」と回答した人は 67%であった。事故やけがについては、交通事故（63%）、外出時のけが（49%）を不安に感じる人が多く、犯罪では空き巣・忍び込み（69%）、子どもに対する犯罪（62%）、詐欺（61%）、災害では大雪（87%）、地震（74%）、火災（73%）を不安に感じる人が多かった。地域活動への参加や対策については、交通安全、防犯、防災活動に普段から参加している人は各 5%程度（参加経験者を含めると 20-25%）であり、消火器や火災報知機の設置は 60%、防災訓練への参加は 26%、水や食料の備蓄は 34%などであった。

4. 結語

事故やけが、犯罪や災害などへの不安を感じる人が多い一方で、地域活動への参加や対策を実施している人の割合は総じて低い水準であった。また、SC 活動に関心がある人は少なくないにもかかわらず、活動が十分に周知されていない現状も明らかになった。住民と関係者との間のより効果的なコミュニケーションを通じて、活動内容を工夫していくことが望まれる。

避難計画から地区防災計画へ繋がる地域防災



高野 幸基

前久那町会連絡協議会 会長

1. 久那地区の状況について

久那地区には、土砂災害の危険箇所(特別警戒区域や警戒区域)が多く点在しています。避難場所へ避難するにも、そこへの避難経路が土砂災害警戒区域を通過せざるを得ない箇所があるほか、市が指定している避難場所や、町会が指定している「いっとき集合場所」の中には、その場所が土砂災害警戒区域内にあるなどの課題も山積しています。

2. 避難計画の作成

土砂災害への対応を模索していた矢先の平成27年5月、秩父市総務部危機管理課より打診があり、明治大学都市計画研究室(山本俊哉教授)より直接指導をいただく機会を得ることになりました。

早速、地域の住民(町会役員や消防団等)が集まり、避難経路検討会(通称 逃げ地図づくり)を発足し、協議を開始しました。検討に当たっては、明治大学より津波からの避難を想定した「逃げ地図」という避難計画図を作成する手法を、土砂災害にも応用すべくご指導いただきました。地図上に考えられる土砂災害の危険箇所を明示し、地域の集会所等(いっとき集合場所)までの安全な避難経路を、避難に要する時間ごとに色分けしていくというものです。地域の住民が参加することで、机上の空論ではなく、実情にあった避難計画を作成することができ、安全な避難経路が一目で確認できるとともに、早いタイミングでの避難開始の重要性についても確認することが出来ました。

3. 地区防災計画の作成へ

市が作成している地域防災計画は、市全体の対応計画を記載しているため、各地域における具体的な行動までは記載されておられません。そこで、今回まとめ上げた避難計画「逃げ地図」をさらに発展させ、久那地区における防災計画まで作成することとしました。

策定に当たっては、平成26年4月に公表された改正災害対策基本法の中の「住民主導による地区防災計画ガイドライン」に沿い、その中の「土砂災害編」としてまとめる事としました。

この地区防災計画では、各個人や各家庭が安全に避難することだけでなく、一人で避難することが難しい避難行動要支援者への支援方法等についても記載しています。なお、この計画を地域に周知し共有することで、平時における備えから、災害時の行動についてどんなことに取り組む必要があるのかが確認することができ、地域の防災力向上に繋がったものと思います。

4. 今後どう繋げる？

策定したこの地区防災計画は、行政に報告し「公助」による支援も期待しています。「自助」「共助」「公助」が繋がることで、地域住民がより安全でより安心して生活できるまちに繋がっていくものと思います。

秩父市内には久那地区以外にも多くの土砂災害が起こりうる危険箇所があります。こうした取組みが、他の地域でも行われ、秩父市全体が安全・安心なまちへと繋がっていくことを期待しています。

安全・安心のまち としま

つなぐ・つながる セーフコミュニティステーション「区民ひろば」

八巻 規子

豊島区地域区民ひろば課長

1. 区民ひろばの成り立ち

豊島区の総人口は増加傾向にあり、現在、28万人を超え、37年前（1980年）とほぼ同数になりました。総人口は同じでも、0～14歳は半減する一方、65歳以上は倍増しています。人口構成が大きく変わり、超少子高齢社会に突入する中で、生活スタイルの変化により地域コミュニティが希薄化し、世代間の交流も少なくなってきました。

そこで豊島区は、60歳以上が利用できる「ことぶきの家」と18歳未満が利用できる「児童館」、区民集会室などの区有施設を統合して、区内22地区の小学校区を基礎的な単位とし、誰でも利用でき、かつ世代間の交流を図りながら地域コミュニティを再生する目的で「地域区民ひろば構想」を進めることとしました。

2006年から始めたこの取り組みは、22小学校区、すべてに設置が完了するまでには10年の歳月を要しました。

2. 区民ひろばの特色

こうした経緯からスタートした区民ひろばは、現在では年間79万人が集う施設となりました。

主なポイントは、4点です。

- ① 子どもから高齢者まで誰でもが利用できる施設
- ② 区民が集う地域コミュニティの拠点
- ③ 歩いて15分程度の小学校区を単位に設置
- ④ 災害時の補助救援センターに指定、社会福祉協議会と連携し8圏域（8施設）にCSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し区民からの相談に対応

最も大きな特色は、地域の課題を住民自身が考え、解決に導くプログラムを企画・実施する「住民主体」を目指しており、すべての「区民ひろば」には地域住民が運営について話し合う「運営協議会」が設けられています。

さらに「運営協議会」をNPO法人化して区からの運営業務を受託する「自主運営施設」は現在7施設になりました。

3. 区民ひろばとセーフコミュニティ

このように区民に最も身近で親しみやすい施設であることから、豊島区がセーフコミュニティの取り組みを進める中で、「セーフコミュニティ活動の拠点」として位置づけられました。

区民ひろばで実施している子どもの事故やケガの防止、交通安全、介護や認知症の予防、防犯などのセーフティプロモーション事業は年々増加し、定着しつつあります。特に運営協議会の企画・実施事業では「防災・減災」に関するプログラムが充実しており、地域の

皆さんがご自身の住んでいるまちの防災・減災を考えています。

また、セーフコミュニティの情報発信も区民ひろばの大きな役割です。施設内に設置した乳幼児の事故予防を取り上げている「ミニキッズセーフ」では、誤飲防止やドアストッパーなどのセーフティグッズを展示・紹介しています。「オレンジリボンコーナー」では、子育て支援課と連携して、児童虐待防止のための情報をわかりやすく伝えています。

4. セーフコミュニティの拠点としての区民ひろばの課題

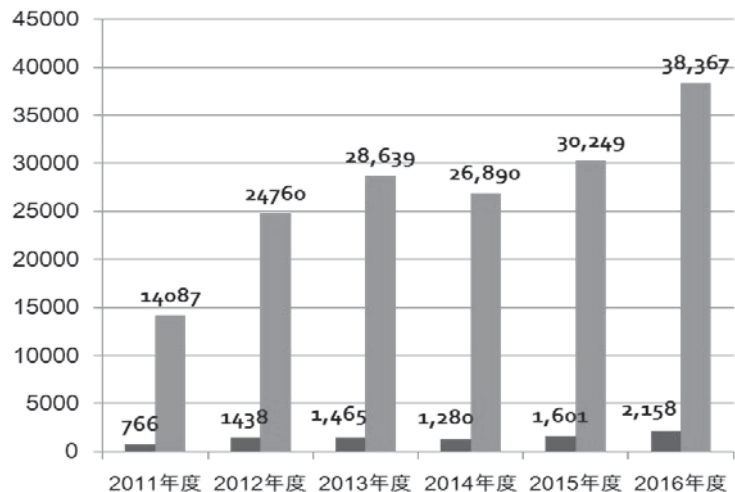
区民ひろばを利用している方々には、セーフコミュニティの取り組みを周知する機会がありますが、利用されない方々にはその情報が届かないのが現実です。

区民ひろばの利用登録は総人口の8%にとどまっています。なかでも18歳から64歳までの登録は世代別総人口の4%にすぎません。この世代の利用を拡大させるために、2016年から3年間かけてすべての日曜日の開館をスタートさせました。これまで利用していなかった方々が利用できるようにするためです。地域の担い手育成を進めながら、セーフコミュニティの輪も広げていくことが重要です。

区民ひろばは、人と人を「つなぐ・つながる」大きな役目を地域の皆さんとともに担っていきます。

セーフコミュニティに関する学習プログラム

■ 年間延べ実施回数 ■ 年間延べ参加人数



● 高齢者の転倒予防 「リフレッシュ体操」



通学路の動物デザインが繋げる子どもの安全安心



櫻田 秀美

Discover&Design スタジオ代表
せた文教サミット事務局長
多摩美術大学講師
日本市民安全学会理事

1. 同じ瀬田の地域でも、子どもたちの危険な内容は、様々でした。

世田谷区の瀬田5丁目辺りは、瀬田農業公園もあり昔は畑だった所を住宅に開発されていて道が真っ直ぐではなく、いつの間にか狭かったり、いつの間にか曲がっていたり、慣れていない人が注意せず気軽に運転していると、アッという間に壁や電信柱を削ってしまいます。

そして、緑いっぱいが魅力の瀬田の通学路なんですけど、この素敵な緑や綺麗な花が、時には危険な障害物になっている事があり、これは多くの場所に注意が必要です。

また、雨が降る日は、普段はハシャイで歩く子も静かに通りますが、狭い側道の歩行路幅が、そもそも足りて居ない事も多いです。更にココは、住宅地から幹線道路へ出られる他の道が近くに無く、たくさんの車や人が、集中していたのです。

2. やはり、スピードダウンしかない。

交通量の多い通学路が指定されている子たちは、危なくても、ソコを通らないとなりません。通勤時間と通学時間が重なる朝のラッシュアワーは、満員電車の様でした。

大渋滞の中、焦って通過する車が、子どもの腕をミラーにブツケテも止まらないで、赤信号へ逃げて行ったり、ドシャブリの中、車から傘に引掛けて来て、ゴメンブサイ デハナク「邪魔だ、どけバカヤロウ！」と怒鳴って威嚇して行くオジさん車。。

こんな殺伐とした道を毎日毎日通っていたのか・・・

お嬢様中学生よ、なんて言って居られない状況でした。。。

明るく、楽しく「おはよう！」と声を掛け合う、学校に通じる寸前の道で、怒鳴られたり、骨にヒビが入る程に虐められ、なんとも痛ましい環境に成って居たのです。

3. 毎日、癒されるモノや、コトはないですか！！

「みんなで、毎日通って楽しくなる道を創りましょう！」と、ココから女子中学生全員と地元の有志とで、デザインの授業が始まりました。。車からも見える様にして、スピードダウンを促す、みんなで一緒に考えました。

山の案内板でつながる山の安全



高橋 幸太郎

秩父市民生委員・児童委員協議会 副会長
秩父市セーフコミュニティ自然の中での安全対策委員会 委員長

1. 自然の中での対策委員会について

秩父市セーフコミュニティ自然の中での安全対策委員会は、「山岳遭難事故が多発していること」「アウトドアレジャー・スポーツ中の事故に不安を感じる人が多い」「農林作業中のケガが多い」「サイクリング中の事故が多い」ことから、秩父市のセーフコミュニティにおける重点対策と位置づけ、設置されました。町会長協議会、民生・児童委員、農協、観光協会、体育協会、青少年育成協議会、警察、消防、市関係課から 13 名の委員で構成されています。平成 25 年 8 月の立ち上げから、これまでに 20 回以上開催しています。

2. 山の安全対策について

山の安全対策については、山岳連盟、警察、消防などの各種関係団体が、安全登山キャンペーンの実施や、登山届の提出促進活動など、様々な活動を行っています。しかしながら、秩父市内の山岳遭難は、減少傾向にはなく、死亡事故も毎年発生しています。対策委員会では、キャンペーン実施時の安全登山の啓発だけではなく、登山者が利用する駅が目立つ場所にパンフレットを設置し、登山者への啓発を行っています。

3. 山の案内板について

対策委員会の分析によると、特定の山で、道迷いが多発していることがわかりました。道迷いについては、登山道の整備などで、防止することができると考えましたが、登山道の整備については、そもそも誰が行うのか明確ではなく、難しいことがわかりました。そこで、対策委員会から市の担当課へ働きかけ、簡易的なものではありませんが、登山道の案内標識を設置しました。その結果、案内標識を設置した山については、平成 28 年度、道迷いによる山岳遭難は発生しませんでした。このことから、対策委員会では、登山道への案内標識設置は道迷い防止に一定の効果があるとして、今後も他の山の案内標識設置、登山道整備について、関係機関に働きかけていきたいと考えています。

4. 「つながる」山の安全対策

これまでセーフコミュニティを通して、安全登山啓発方法の改善や、登山道整備への働きかけを行ってきましたが、記述の通り、市内全体の山岳遭難は減少傾向にありません。特に山岳遭難の発生場所に新たな傾向がみられることから、登山道整備については、対策委員会の重点課題として捉えています。また、近年は SNS を利用した登山情報の共有や、スマホアプリで登山届の提出を行うことができるなど、あらたなツールが登場しています。対策委員会では、(登山道整備など、ハード面で「つながる」山の安全対策を引き続き継続するとともに、SNS やスマホアプリなど(ソフト面)で「つながる」(情報共有)山の安全対策について、検討を進めていきたいと考えています。

セーフコミュニティで繋がる分野横断的な安全安心の取組み



(今後の課題)

宮前 房男

SC 事務局 秩父市危機管理課 課長

1. セーフコミュニティに取り組む理由

秩父市では、「安全・安心」はまちづくりの最も基礎的、かつ、重要な要件と考えており、市民の一人一人が、安全に安心して、ずっと暮らせるまちづくりを最大の課題としています。しかしながら、秩父市の高齢化率は、すでに 30%を超えています。さらに、人口は減少の一途をたどっており、特に働く世代や子どもたちの人口は、10 年後に約 20%減少してしまう予測となっています。

また、財政状況も、人口の減少に伴う歳入の減少、合併特例措置の消滅、扶助費の増加、インフラの維持コストの増加など、一段と厳しくなっていくことが懸念されています。

こうした状況のなか、安全・安心な地域社会を維持し続けるための手段として、セーフコミュニティ（以下 SC）の国際認証制度に着目しました。

2. 分野を越えた協働推進組織と地域の特性を踏まえた 7 つの課題

SC は、分野横断的な連携のもとで、科学的な根拠に基づいて、事故やケガを予防する活動です。そこで、2012 年 11 月に、町会・福祉団体・経済団体・医師会・消防・警察・学校など市内 37 団体から構成される「推進協議会（会長＝市長）」を設立し、横断的に連携できる体制を整えました。次に、秩父市の事故やケガの特徴を踏まえて、平成 25 年 8 月に、①交通安全、②高齢者の安全、③子どもの安全、④自殺予防、⑤犯罪の防止、⑥災害時の安全、⑦自然の中での安全、以上の 7 つの重点分野で対策委員会を設置しました。さらに、平成 26 年 2 月には、対策委員会への助言や、取組の効果などを検証する外傷サーベイランス委員会を設置しました。

3. 「つながる」SC 推進活動

秩父市は、地域のつながりが強く、地域を支えようとしてくれる人が大勢います。それを裏付ける数字として、町会組織率は 93%、消防団員は 1,042 人（人口 10 万人あたり 1,631 人）もいます。市内すべての町会に、自主防災組織も結成されています。

単に、エビデンスベースの取組みを行うだけであれば、従来の行政の枠組みの中でも事業を進めることは可能です。しかし、市民の関心を集め、庁内の意思統一をし、市民や関係団体が一体となるためには、何かのきっかけが必要です。SC は秩父市にとってそのきっかけとなるものでした。事故やケガの減少が期待されていることはもちろんですが、それ以上に大切なことは、市民・各種組織・行政などが一体となって、互いに協力しあう「つながる」まちづくりを推進することと考えています。SC というツールは、まさに組織の枠を超えた「つながる」まちづくりの推進力であると実感しています。

4. 今後の課題

2016 年度に実施した市民意識調査の結果をみると、SC を全く知らないと答えた市民が 50%を越えていましたが、一方で、安全・安心なまちづくりとしての SC の取組みに関心があると答えた市民は 70%近くいました。また、SC 取組み前と後で何が変わったのか、どういった効果が出ているのか、客観的に示すデータの収集をさらに進めていく必要があります。

今後は、地域の特性を分析し（See）、重点課題やハイリスクの対象を特定し（Plan）、取組み（Do）を実施し、成果の測定（Check）や改善（Action）を行う、S・P・D・C・A サイクルを回しながら、SC 認知度向上を図るため、市民への SC 活動のフィードバックに力を入れていきたいと考えています。

第2分科会《会場：けやきフォーラム A,B》

セーフコミュニティ（SC）が『はぐくむ』安全・安心の創造

趣旨

『はぐくむ』には、SC活動の安全や安心のこころやかたち（創造力）、データへの関心など科学の眼や思考法、住んでいるまちへの関心、内外の安全情報への関心など、また、子どもの心、防犯（「家と心」2つの鍵かけ）のこころなど、地域が主役となってコミュニティの安全・安心増進のための叡智や、市民生活の質の向上のための日々の市民生活に資する「作法」やこころのあり方が含まれます。

分科会では、防犯の「犯」の姿形の変化に応じた「防」の姿形（例えば「鍵と指紋」を守るこころ、交通安全の心（追突事故予防、ヘルメット、反射材）、犯罪予防運動、防犯パトロール活動等、地域の絆、メーカーの力、作業療法士の技など様々な「はぐくむ」安全安心のこころやすがたについて、議論を深めます。

座 長 村瀬恵子

副座長 倉持隆雄 金子理恵子

1【特別講演】「どうはぐくむ「鍵と指紋」を守るこころ」

～レンズで盗まれるあなたの「鍵と指紋」新情勢

富田 俊彦氏 【防犯設備士協会 特別顧問】

2「どうはぐくむ『ヘルメット・反射材』と交通安全運動」

金子 理恵子氏 【交通安全対策委員会 委員長】

3「どうはぐくむ犯罪防止運動（最近の犯罪情勢と対策）」

安部 一夫氏 【犯罪の防止対策委員会（秩父警察署生活安全課長）】

4「どうはぐくむ防犯パトロール・鍵かけ運動（不審者対策を含む）」

富田 陽子氏 【犯罪の防止対策委員会 副委員長】

5「どうはぐくむ地域の絆、安全安心のこころ」

～ 厚木市における不審者から子供を守る取り組み

倉持 隆雄氏 【厚木市セーフコミュニティくらし安全課SC指導員】

6【話題提供】「地域、防災、災害支援に対して、メーカーが発揮する

『つながる、はぐくむ、とどける』ちから」

櫛間 香奈氏 【ハッソー株式会社 マーケティング部マネージャー】

7【話題提供】

「どうはぐくむ高齢者の健康と安全・安心～作業療法士としての創意工夫～」

松岡 公平氏

【らいおんハート整形外科リハビリクリニック統括部長、作業療法士】

どうはぐくむ「鍵と指紋」を守るころ



富田 俊彦

公益社団法人日本防犯設備協会 特別講師
日本市民安全学会 顧問

1. 便利さの裏に潜む怖さ

「鍵は防犯の要」と言われますが、錠前も進化し、ノンタッチキー、カードキーをはじめ、指紋、静脈等のバイオメトリックスを利用した電気錠システムが普及しています。

人の目では見えなかったものが、カメラの高解像度化によって鮮明画像で瞬時に見られる様に便利になりましたが、一方で使い易さ、格好良さを優先するあまり、安全性が疎かになって、映りすぎのリスクを抱え、新たな手口犯罪の誘発やプライバシーの侵害など国民生活に影響を及ぼす危険性があります。

2. 見えすぎる怖さ

錠前も、スマートフォンを使用して遠隔操作で施解錠する IoT の時代を迎えています。指紋は万人不動、終生不変ですが、スマートフォンで撮影したピース画像から指紋を盗み取って、偽指を作り、偽造した指の指紋から、本人になりすましてパソコン等に侵入することが可能になっています。また、インターネットで合鍵を複製して不法侵入する事件、電子キーの制御設定を変更して不正解錠し、自動車を多量に窃取する事件など、新たな手口事件が次々と発生しています。

3. 見られている怖さ

「顔認証」は、ここ数年で急速に普及し、スマホのロック解除、業務用パソコンにログインする際の本人確認、スーパー、書店、ドラッグストアなどの万引き防止、空港ビルやスタジアムでの不審者の検索やテロ対策、テーマパークの入場チェック、会員制飲食店の入店チェックなど広く使用されています。日常生活で、知らない間に「顔認証システム」で、群衆の中の自分の顔が常時撮影され、解像度の高い映像で瞬時に個人識別して、事前登録された人物か、手配中の犯人か否か等、何時もチェックされ続けているのです。

4. 問題点と対策

私達は、進化し続ける技術の恩恵を受け、見えることが絶対だと信じていますが、便利さの裏に潜むリスクや犯罪の怖さを認識し、現状の問題点を把握して、機器のシステムや性能を知ることが必要です。使用目的を明確に、許容範囲を検討し、一定の線引きや必要な法規制を行い、設置場所には「顔認証で情報取得中」と明示するなど、個人情報保護法を遵守し、国民の生活を脅かすことなく安心して使用出来るものにしなければなりません。

どうはぐくむ「ヘルメット・反射材」と交通安全運動



金子 理恵子

秩父タクシー協会 会長
秩父市セーフコミュニティ交通安全対策委員会 委員長

1. 交通安全対策委員会について

秩父市セーフコミュニティ交通安全対策委員会は、「年間 300 件前後の人身交通事故が発生している」「外傷における救急搬送のうち 4 割近くが交通事故」「交通死亡事故が発生している」「交通事故に不安を感じている市民が多い」ことから、秩父市のセーフコミュニティにおける重点対策と位置づけ、設置されました。タクシー協会、交通安全母の会、町会長協議会、交通安全協会、交通指導員、県土整備事務所、警察、市関係課から 12 名の委員で構成されています。平成 25 年 8 月の立ち上げから、これまでに 20 回以上開催しています。

2. ヘルメット・反射材について

交通安全対策においては、自転車乗車時のヘルメット、夜間歩行時の反射材着用促進は重要な要素です。対策委員会においても、着用を促進するため、高齢者、子ども向け交通安全教室の内容改善を行い、ヘルメットと反射材の着用を重点的に呼びかけています、特に、市内において、高齢者の夜間歩行中の交通死亡事故の発生があったことから、交通安全母の会や民生委員と連携し、高齢者世帯を直接訪問し、反射材着用を呼びかけました。また、ヘルメット着用促進については、今年度から、ヘルメット購入補助制度が創設され、普及を呼びかけているところです。

3. 交通安全運動について

交通安全運動については、セーフコミュニティに取り組む前から、実施されてきました。例えば、警察での信号機設置などの交通規制、県や市では道路管理者としての道路環境整備、さらには、各種団体が協力し、交通安全運動や安全教育などを実施していました。対策委員会ではこれに、科学的根拠をプラスし、既存の交通安全運動の改善を行っています。交通事故データ、プロドライバーへのアンケートの分析から、市内における交通事故発生傾向把握や、新たなリスクの発見などにつながっています。

4. 今後どう「はぐくむ」？

セーフコミュニティ活動の中で、ヘルメット・反射材の普及促進、交通安全運動の改善などを継続して行ってきましたが、最新のアンケートによると、セーフコミュニティ取組前と比べて、交通安全運動が盛んになったと感じている市民は 15%程度と少なく、また、今年度創設されたヘルメット補助金については、申請件数の伸びがいまひとつといった状況です。さらに、高齢者の歩行中の交通死亡事故についても、平成 27 年度は発生がなかったものの、平成 28 年度に 1 件発生してしまいました。対策委員会としては、自転車乗車中のヘルメット着用、夜間歩行時の反射材着用など、交通安全への市民意識を「はぐくむ」ため、今後重点的に呼びかけるとともに、啓発のアプローチ方法についてさらに検討を進めていきたいと考えています。

どうはぐくむ犯罪防止運動（最近の犯罪情勢と対策）

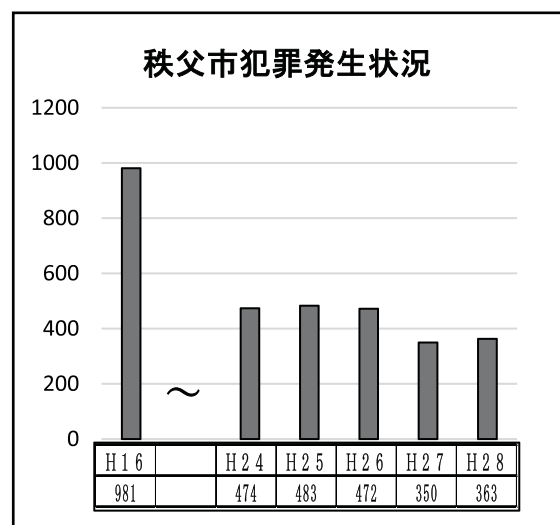


安部 一夫

埼玉県秩父警察署 生活安全課長

1. 最近の犯罪情勢

埼玉県内の刑法犯認知件数は、過去最悪であった平成16年の約18万件を境に以降減少傾向が続き、平成28年は7万件を下回る状況であり、秩父市においても、刑法犯認知件数が平成16年は981件(当時の荒川村・大滝村含む)であったが、平成28年は363件まで減少しています。また、人口1,000人当たりでの犯罪率では、平成28年は埼玉県平均で9.6件に対し、秩父市は5.8件であり、数字的には秩父市は比較的安定した治安情勢と言えます。しかし、犯罪認知件数は減少傾向にあるものの、オレオレ詐欺や架空請求詐欺などの特殊詐欺被害の発生が依然として後を絶たず、また、侵入窃盗や車上ねらい、自転車盗など身近なところで発生していることから、犯罪への警戒心を緩めることなく、今後も継続的な犯罪防止対策が求められます。



2. 犯罪防止対策

(1) 身近なところでの対策

侵入窃盗や車上ねらい、自転車盗などは被害の半数以上が鍵をかけていない無施錠での被害であり、短時間でも「必ず鍵をかける」ことの習慣付けや、車内に物を置いたままにしないなど身近なところで、一人ひとりの防犯意識向上が重要です。現在、犯罪の防止対策委員会においても「鍵かけ運動」を推進中です。

(2) 情報発信と情報共有

犯罪防止のためには、「地域でどのような犯罪が発生しているのか」「犯罪防止のためにどのような対策が必要か」等の具体的情報の発信と、その情報を受けた側が情報を共有し対策を講じることが必要です。都市部と比較し地域の連携が強い秩父地域の特性を生かし、更なる安心・安全な地域づくりを推進していきます。

どうはぐくむ防犯パトロール・鍵かけ運動



富田 陽子

秩父地区更生保護女性会 会長
秩父市セーフコミュニティ犯罪の防止対策委員会 副委員長

1. 犯罪の防止対策委員会について

秩父市セーフコミュニティ犯罪の防止対策委員会は、「刑法犯認知件数は少ないものの、減少傾向にない」「地域住民が協力して防犯活動に取り組むべきと考えている市民が多い」「防犯対策について多くの市民が重要と考えている」ことから、秩父市のセーフコミュニティにおける重点対策と位置づけ、設置されました。町会長協議会、青少年育成協議会、民生委員、保護司会、更生保護女性会、商工会議所、商店連盟連合会、校長会、防犯協会、県地域振興センター、警察、市関係課から 15 名の委員で構成されています。平成 25 年 8 月の立ち上げから、これまでに 20 回以上開催しています。

2. 防犯パトロールについて

市内では、防犯推進員、町会など多くの関係団体が、定期的に防犯パトロールを実施しています。しかしながら、パトロールを行っていることが、市民に伝わっておらず、犯罪に対する不安の解消につながっていませんでした。また、市民アンケートでは多くの方が、地域で防犯活動をすることが重要と考えている一方で、実際にパトロールに参加する方は固定化しているという課題もあります。そこで対策委員会では、防犯パトロールの周知を図るため、パトロールカードの配布を開始しました。パトロールを行った地域のお宅にカードを配布することで、犯罪に対する不安の解消と、活動の周知を図ることができると考えています。

3. 鍵かけ運動について

対策委員会での分析によれば、市内で侵入窃盗の被害にあった方のうち、半数以上が無施錠で被害にあったということがわかりました。また、市民アンケートの結果でも、外出時には 9 割以上の方が施錠していると答えた一方で、在宅時には 5 割以上の方が施錠していないという結果も出ています。このことから、外出時はもちろん、在宅時にも施錠を徹底するよう「鍵かけ運動」を開始しました。運動では「鍵かけ運動」シールを作成し、特に侵入窃盗被害の多い地区に配布、玄関のドアに貼付してもらうことで、日ごろから施錠への意識啓発ができると考えています。

4. 今後どう「はぐくむ」？

これまでセーフコミュニティ通して、防犯パトロールの周知や、「鍵かけ運動」の推進を継続してきましたが、最新の市民アンケートによると、市民の意識に顕著な変化はない状況です。そこで、対策委員会では市民の防犯意識を「はぐくむ」ために、隣組制度に着目しています。町会よりもさらに地域に密着した隣組は、防犯意識の醸成、防犯活動の周知、地域の目の強化に役立つと考えています。これまでは、町会単位での防犯活動を中心に捉えてきましたが、今後は新たなアプローチを検討し、地域で「はぐくむ」防犯を実現していきたいと考えています。

どうはぐくむ地域の絆、安全安心のこころ



～厚木市における不審者から子どもを守る取り組み～

倉持 隆雄

厚木市セーフコミュニティ総合指導員

1. はじめに

子どもの危険・不安情報を収集して分析することにより、子どもをめぐる潜在的犯罪遭遇リスクの分布が把握でき、被害の未然防止対策に参考として、有効活用できる。厚木市では、平成16年から平成28年までの13年間に市内で確認された1,015件の不審動向情報(不審者等情報)を分析し「愛の目運動」などの地域安全活動に有効活用している。

2. 危険・不安に遭遇した子どもの対応が重要

多くの子どもの犯罪被害は、一人の時に多く発生している。

子どもの被害の未然防止のためには、子ども自身が不審者等に遭遇した場合に、その状況をすぐに親や先生などに知らせることを生活習慣化することが重要である。

次に、子どもからの情報を、親や先生等が必要に応じ、いち早く警察や市に連絡できる体制を作る必要がある。

3. 不審動向情報の収集・分析・伝達等の具体的手法

市に提供された不審動向情報は、警察、学校、自治会、ボランティア団体等からのものが多く、その背景としては、地域住民の防犯意識の高揚が挙げられる。集積した情報は、市の担当課において、時間別、動向情報別、年齢別、乗物等別、被害者等別、曜日・月別、天候別、地域別などに分析する。

また、警察からの情報を罪種別、地区別、月別などに整理し、地域の現場で、コミュニティのリーダーが活用しやすいようグラフで図解にするなど、見やすく理解できるよう加工編集し、地区市民センター(公民館)等に配布している。

情報が発信されるようになり、自分の地域や身の回りで発生している犯罪の多さを初めて知り、地域住民の犯罪に対する意識が大きく変化し始めたのである。また、市に提供された情報をできるだけ早く地域住民に知らせることが、コミュニティや地域安全活動の活性化に大きな役割を果たしていることが確認できた。

4. 愛の目運動

愛の目運動とは、例えば、子どもが学校に登校する時、親は門の外まで出て「行ってらっしゃい!」と、自分の子どもを見送り、近所の子供たちにも「気をつけて、行ってらっしゃい!」と、声をかけ見送る。

また、子どもたちの下校時間にあわせ「家の周りの掃除」、「買い物」や「犬の散歩」。高齢者の方は、天気の良い日に子どもたちの下校時間にあわせ、自宅の庭などで「日向ぼっこをする」など、簡単に出来ることをみんなで実施する「子ども見守り運動」である。

地域、防災、災害支援に対して、メーカーが発揮する



「つながる、はぐぐむ、とどける」 ちから

櫛間 香奈

ハッソー株式会社 マーケティング部マネージャー

私たち、ハッソー株式会社は品川区に本社を置く、衛生・清掃用品の OEM（他社ブランド製品の製造）をメイン事業とした企業です。プライベート商品のパッケージに私たちの名前は、一切出ることが無く、今までは「黒子」のような存在として、消費者の皆さまのお手元に製品を「おとどけ」して参りました。

そんな私たちの状況は、2016 年 11 月に大人用紙オムツ「HASOCARE®（ハッソーケア）」を発売して以降、劇的に変わりました。

まず、お客さまとの「つながり」がより強固に、密接なものへと変化しました。発売にあたって設置したお客様相談室には、「こんな商品を待っていた！」という感謝の声や「もっとこうなったら使いやすい」という叱咤激励の声が毎日届き、「私たちが生み出したこの商品をお客さまとともに はぐぐんでいるのだ」と、実感しています。また、いただいたお客様の声にこたえ、この 10 月より商品ラインナップを拡充、商品の一部をリニューアルいたしました。尿漏れの症状から外出を控えていた方が、HASOCARE®を手にする事で、もう一度外に出ることの楽しさを取り戻し、数十年来のお友達やご近所の方々、地域と「つながっていく」—この商品をより多くの方に「とどける」べく、私たちはいま、日本中・世界中を飛び回っています。

さらに、私たちは、日本の製造拠点を置いている石川県の大学と共同開発を行う「産学連携」や被災された方への「物資支援」および「防災協定の締結」などにも、力を入れています。直近では、7 月の九州北部の豪雨で深刻な被害を受けた大分・福岡県の方々にパンツ 5,000 枚を寄付いたしました。

こうした『地域との連携—つながること』、『そして、その関係をはぐくむこと』、『その関係の中で、私たちの社是である「すべての人に快適を」—この思いを届けること』が、私たちの使命であると感じています。

今回は、そんな私たちの活動内容の一部、併せて商品についてもご紹介させていただけたらと思います。

「どうはぐくむ高齢者の健康と安全・安心

～作業療法士としての創意工夫～



松岡 公平

らいおんハート整形外科リハビリクリニック統括部長
作業療法士

1. はじめに

作業療法とは、「身体または精神に障害のある者、またはそれが予測されるものに対してその主体的な活動の獲得をはかるため、諸機能の回復・維持および開発を促す作業活動を用いて、治療、指導および援助を行うことをいう」と定義されている。高齢者が日常の中でいきいきと生活をはぐくんでいくために作業療法士としてどのようなことを支援できるのかを検討したので以下に報告する。

2. 作業とは何か

食べたり、入浴したり、家事や掃除をしたり、仕事をしたり、趣味の活動を行ったり人の日常生活に関わるすべての諸活動を「作業」と呼んでいる。その作業を目的としてや手段として用いることで人と社会をつなぐ接点となっている。

3. 現在の当グループの取り組み事項と課題

一人一人に合った治療、安全かつ効果的な治療、治りにくい症状を改善させる多面的なアプローチ、患者様のニーズに応える医療の4つの基本方針にてあきらめない治療をめざしている。リハビリ内容としてはMPF療法による痛みの軽減に向けての治療、ロボットを利用した最新のリハビリ（HAL、Reogo-J）、脳卒中の麻痺に対してのボツリヌス療法、川平法などを実施している。技術へのこだわりを大切にして患者様や利用者様に喜ばれているが、課題点としては初期への患者様の取り組みとしてはよいが、経過がたつにつれて受け身型になりやすかった。

4. グループ内で取り組んだ創意工夫

デイサービスにて3つのコンセプトの手を出しすぎないこと。制限しない。一人一人の特徴を捉えることを大切に取り組んだ。今までは、がっちり介護、手厚いサービスをモットーに一对一の関わりに趣きをおいていた。目標は患者様からありがとうと言われる数より、スタッフが患者様や利用者様にありがとうという数を多く言ってあげることに変更した。利用者様の一人一人のやることを明確に役割を与えることでいきいきとした表情が生まれた。最近は食事が終わった後のお皿洗いや片付けなども一緒に行うようになったり、長く利用している利用者様が新しく入った利用者様へ教えている姿もみうけられるようになり、自立支援型へ向かいつつある。高齢者の健康や安心、安全を自らの意志や尊重を踏まえて築いていけるように今後も取り組んでいきたい。

第3分科会 《 会場：けやきフォーラム C,D 》

セーフコミュニティ（SC）が『とどける』安全・安心の創造

趣旨

『とどける』には、SC活動による安全や安心の他、科学の力、内外の安全情報など、地域が主役となって、コミュニティの安全・安心のための叡智や、市民生活の質の向上のための必需品が含まれます。また、届けるモノや人、情報、こころとかたち、元気、笑顔等も含まれます。

分科会では、ロボット、転倒予防対策、介護のあり方、自殺予防対策、子どものいじめ防止、ネット空間の子ども安全、SCの次世代へ伝承など、様々な「とどける」姿形について議論を深めます。

座 長 西田佳史

副座長 堀内裕子 多比羅幸男

- 1 【特別講演】「ロボットがとどける高齢者の安全で活動的な生活」
～神戸と昭島の取り組みから
西田 佳史氏 【産業技術総合研究所 人口知能センター首席研究員】
- 2 「どうとどける転倒予防対策」
～自宅内危険個所の啓発と茶トレ・秩父ポテくまくん健康体操の普及
多比羅 幸男氏 【高齢者の安全対策委員会 委員長】
- 3 【話題提供】どうとどける『介護のかたちとこころ』
～買い物、通院難民を通じて見える地域の課題
福田 英二氏 【白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス施設長、
看護師、ケアマネージャー】
- 4 「どうとどける自殺予防のかたちとこころ」
～自殺予防標語入り看板の設置とホットスポット対策
竹越 至氏 【自殺予防対策委員会 委員長】
- 5 「どうとどける『いじめ防止』のかたちとこころ」
根岸 力氏 【セーフスクール推進校 秩父第二中学校 教頭】
- 6 「どうとどける『サイバー・ネット空間の子どもの安全』」
菅野 泰彦氏 【全国読売防犯協力会 専任講師】
- 7 「セーフコミュニティの安全・安心を地域と次世代に届ける （再認証を願ひて）」
～自治会単位のきめの細かいSC安全・安心活動等
向山 静雄氏 【箕輪町SC推進協議会アドバイザー】
- 8 総括コメント
堀内 裕子氏 【シニアライフデザイン 代表】

ロボットがとどける高齢者の安全で活動的な生活

(神戸と昭島の取り組みから)

西田佳史

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター
日本市民安全学会会員

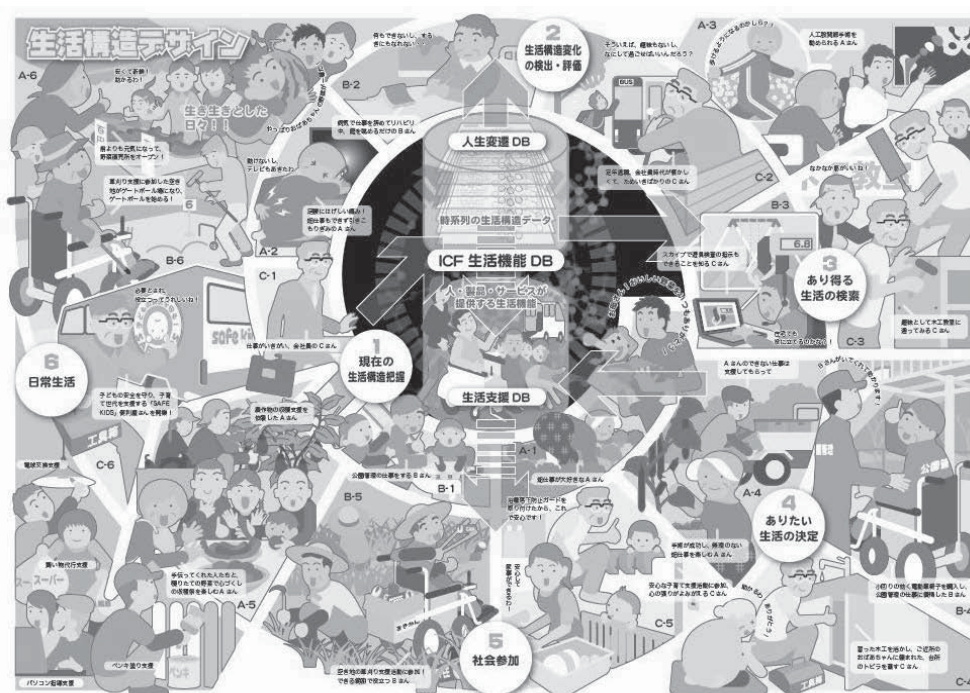


1. 生活機能レジリエント社会にむけて

生活機能レジリエント社会が求められている。高齢社会（認知症社会）が進むに伴い、認知機能・身体機能・家族の機能に変化が生じたとき、安全性や高度な社会参加を確保してくれる社会的・産業的な仕組みが求められている。2015年に国連で採択された持続可能な開発のための2030アジェンダでも、あらゆる年齢や障害を持った人の安全性確保、サービスへのアクセスの確保、それらに配慮されたコミュニティのデザインの必要性などが指摘されている。

2. コミュニティ連携したデジタル水晶玉の取り組み

下図は、本研究で目指す生活機能変化レジリエント社会の役割を書いたものである。この図は、何らかの生活機能変化が生じた際に、それを検出し、他者の生活機能変化のデータベースを活用することで、1)ありえる生活の提示、2)ありたい生活の選択支援、3)生活支援サービス(IRT)や社会的ネットワークの統合的活用によるありたい生活の実施、4)その評価を通じた持続的な生活改善によって、社会参加の質が高まっていく循環プロセス(4)を示している。現在、兵庫県神戸市や東京都昭島市など地域で、自治会や地域包括支援センターと協力し、生活デザインの支援技術と地域地図とを組み合わせ、それらを社会参加を向上させるために活用する活動を進めている。これまでに、自分と類似した生活構造を持つ人が利用しているサービスのうち、生活改善に役立ったサービスを探してくれる機能を開発してきた。また、地域に眠っている社会参



加の場を、高齢者が地図に書き込み、見える化する作業を行うことで、自治会、包括支援センターなどの社会にすでに存在しているリソースをうまく活用し、高齢者個人の生活状況に合わせた高度な社会参加支援も進めてきた。

どうとどける転倒予防対策



多比羅 幸男

秩父老人クラブ連合会 会長
秩父市セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会 委員長

1. 高齢者の安全対策委員会について

秩父市セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会は、当市の課題「秩父市では65歳以上の高齢者の増加が著しく、将来的にも高齢化が進むことが予想される」、「高齢になるほど救急搬送発生率が高く、特に、転倒・転落により救急搬送されるケースが多い」を解決するため、秩父市のセーフコミュニティにおける重点対策と位置づけ、設置されました。老人クラブ連合会、在宅福祉員連合会、町会長協議会、健康推進員連絡会、民生・児童委員、福祉事業団、福祉協議会、市関係課、公募職員から16名の委員で構成されています。平成25年8月の立ち上げから、これまでに20回以上開催しています。

2. 「自宅内危険箇所」の啓発について

救急搬送データから、「転倒・転落」による65歳以上のケガが発生するケースが多く、そのうち約6割が自宅で「転倒・転落」していることから、「家庭内危険箇所」の啓発に取り組みました。まず、高齢者5,000人に対し家庭内のケガの実態をアンケート調査し、結果を反映したリーフレットを作成しました。リーフレットには、危険箇所の啓発のほか、費用をあまりかけずに改善する方法なども盛り込みました。このリーフレットを高齢者に配布することで、転倒防止に取り組んでいます。

3. 「茶トレと秩父ポテくまくん健康体操の普及」について

高齢者の自宅での転倒を減らす対策として、「自宅でもできるお茶のみ体操（通称：茶トレ）の普及」を推進しました。従来の教室参加型の方式では、参加できる人数は限られており、自宅で少しの時間でもできる「ちちぶお茶のみ体操」を普及させることで高齢者全体をカバーします。また、「ちちぶお茶のみ体操」とあわせて、集会所等で集まって実施する「秩父ポテくまくん健康体操の普及」に力を入れています。これは、高齢者が気軽に集まり高齢者同士で見守りあえるサロンの役割と高齢者の筋力アップによる転倒防止効果を目的とするものです。自宅でできる「ちちぶお茶のみ体操」と高齢者同士集まってできる「ちちぶポテくまくん健康体操」の両方を普及させることで、高齢者の転倒によるケガの予防に努めています。

4. 今後どう「とどける」？

これまでセーフコミュニティ通して、対象が高齢者という現状から、「自宅内危険箇所」の啓発や「ちちぶお茶のみ体操・秩父ポテくまくん健康体操」の普及にあたっては、取り組みの必要性を含めた繰り返しの周知が最も重要と考えています。そのためには、既存の活動を繰り返し実施するとともに新たなアプローチ方法の研究も必要となります。高齢者の転倒による傷ましいケガが少しでも減少するよう、多くの高齢者に「とどける」転倒防止対策の実現に努めてまいります。

どうとどける「介護のかたちとところ」

～買い物・通院を通じて見える地域の課題～



福田 英二

白岡市地域包括支援センター
ウエルシアハウス 施設長、看護師、ケアマネージャー

介護保険創設後15年以上が経過し、高齢者を取り巻く地域の状況は、当初の予想とは大きく変わってきました。

認知症高齢者や単独世帯高齢者の増加、買い物難民や通院困難者の増加など、これまでの介護保険制度だけでは解決できない、多くの課題が噴出しています。

今回の報告では、こうした自宅に引きこもりがちな高齢者や移動困難な高齢者の例から、私たちの地域の近未来を考えてみたいと思います。

つい20年前は元気な子供たちが遊びまわり、祭りや町内会活動が盛んであった街が、いつの間にか子供たちが巣立って高齢者だけの地域になっていきます。

知らず知らずのうちに、気が付けば地域には小さなコンビニが一つ二つある程度で、買い物や日常生活品を求めることも困難となっていくます。

介護が必要となる前に、生活を支える仕組みをつくり、私たちがどう地域を再生するかが問われています。安全・安心の街づくりはインフラの整備と共に、人が寄り添う、人が行き交う街づくりを、地域の隅々まで届けることがますます必要となっています。

どうとどける自殺予防のかたちとところ



竹越 至

秩父郡市医師会 理事
秩父市セーフコミュニティ自殺予防対策委員会 委員長

1. 自殺予防対策委員会について

秩父市セーフコミュニティ自殺予防対策委員会は、当市の課題「秩父市の自殺死亡率が全国・埼玉県よりもかなり高くなっている」を解決するため、秩父市のセーフコミュニティにおける重点対策と位置づけ、設置されました。秩父郡市医師会、秩父郡市歯科医師会、秩父郡市薬剤師会、秩父中央病院、秩父商工会議所、西秩父商工会、荒川商工会、社会福祉協議会、民生・児童委員、高齢者相談支援センター、障害者団体連絡協議会、秩父警察署、小鹿野警察署、消防本部、司法書士会、職業安定所、保健所、市関係課から23名の委員で構成されています。平成25年3月の立ち上げから、これまでに16回以上開催しています。

2. 「自殺予防標語入り看板」の設置について

厚生労働省のデータから、秩父市は橋やダムが多いことから、河川や湖への飛び降り自殺をする方が多いことが分かりました。こうしたことから、橋やダムからの投身自殺を防ぐため、危険と思われる橋等へ「自殺予防のための標語を利用した看板」を設置しています。現在、市内8箇所へ16枚の自殺予防標語入り看板を設置し、その結果、橋からの投身自殺の件数が半分以上に減少しています。また、看板の設置等により、地域住民が自殺に関心を持つようになり、自殺をしようとする方への声かけ等が行われ、自殺の防止に結びついております。引き続き、ゲートキーパーの養成とあわせてこの取り組みを継続し、自殺予防を行ってまいります。

3. 「ホットスポット対策」について

「風光明媚な秩父は自殺の名所」とそんな風評も聞かれることから、住所地と発見地別に自殺のデータを分析してみたところ、市外から秩父に来て自殺する人が毎年20人前後いることがわかりました。これは、世界遺産の富士山の樹海という自殺名所がある山梨県の自殺率よりも高く、当対策委員会も「自殺のホットスポット対策」に取り組みました。取り組みにあたり、自殺のホットスポットの先進地である山梨県から講師を招き、研修会を行いました。そして、当市の自殺ホットスポットに関係する鉄道、ダム管理所、警察、消防等が集まり、各機関でのホットスポット対策に関する問題について共有を行うとともに、定期的に対策研修会を行うことで、関係者の意識の向上を図り、市外からの自殺予防に繋げています。

4. 今後どう「とどける」？

自殺予防対策委員会では、自殺予防フォーラムや講演会の実施、相談窓口の開設、自殺予防キャンペーンの開催、ゲートキーパーの養成や自殺未遂者への対応など、様々な取り組みを行っています。セーフコミュニティ活動を通して、今まで難しいと考えていた自殺未遂者への支援にも取り組み、自殺者も減少傾向にあります。引き続き、市民や市外からの自殺者の減少を目指して、自殺志願者の心へ「とどける」自殺予防対策を実現していきたいと考えています。

どうとどける「いじめ防止」のかたちとところ



根岸 力

秩父市立秩父第二中学校 教頭

1. いじめ撲滅宣言

いじめは心身の健全な発達に重大な影響及ぼし、不登校などの背景となる深刻な問題です。しかも、最近のいじめはパソコンやスマホなどにより、一層見えにくいものになっています。本校でも、いじめはどの子にも起こりえるものであること、だれもが被害者にも加害者にもなり得るものであることを認識したうえで、『いじめ防止基本方針』を策定しています。いじめ防止に向けた指導計画に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対応」ができる体制で生徒を指導・支援しています。特に「未然防止」を重視し、積極的な生徒指導を推進する中で生徒会本部から提案されたのが『いじめ撲滅宣言』です。生徒総会で採択された後、毛筆で清書して校内に掲示したり、朝会やその後の生徒総会で再確認したりして、意識を高め、いじめ防止につなげてきました。

2. スマホルール

本校では、I S S（インターナショナルセーフスクール）認証校として安全・安心な学校づくりを推進してきました。その中でも『スマホルール』は生徒が考え、家庭にも協力を呼びかけてきた取組です。メールやLINEでの誹謗中傷によるいじめは、深刻な問題です。本校では生徒指導主任が入学説明会においてそのトラブルについて6年生や保護者に説明し、スマホ（携帯電話）は学校に持ってくることを禁止しています。所持させる場合は、保護者の責任でフィルタリングをかけ、各家庭でルールを作るよう依頼しています。しかし、振り回されている生徒がいるのも現状です。そのような中で『スマホルール』が生徒会（I S S委員会）から示されました。生徒会では、主体的に定着度を調べたり、テストをしたりして、より多くの生徒にルールの大切さを浸透させ、実践に結びつくよう工夫しています。また、学校のHPに掲載し、保護者や地域の方々に協力していただけるようお願いしています。

3. 自己肯定感

I S S認証校としての実践の柱に「心のケガ」に対する取組があります。不登校やいじめの原因の根底にあるのは『自己肯定感』の欠如だととらえています。本校では、委員会活動や学校行事が生徒中心に行われ、達成感が味わえるよう、教職員が意識して支援しています。また、自己を振り返るアンケート等を通して、自分の成長を自覚できるようにしています。また、生徒一人一人の状況を把握するために、学級担任と生徒との「やりとり帳」やさわやか相談員やスクールカウンセラーによる面談を随時行っています。特に心配な生徒については、毎週実施している生徒指導部会と教育相談部会で現状や今後の対応に

について確認し、学年で組織的に対応する体制を整えています。また、さわやか相談員は全生徒と放課後に面談し、「心と身体 の健康調査」を担当へ報告する体制を整えています。また、家庭訪問も一昨年度から再開し、保護者と協力して生徒を成長させるための信頼関係を築いています。学力面でも、定期テスト前に「放課後学習会」を実施して支援体制を整えています。また、宿題等を忘れた生徒には、その生徒に個別に対応して宿題を出せる日を自己決定させたり、サポート体制を整えたりしています。教師が生徒に寄り添える心と時間の余裕が課題です。

4. 郷土の中で生きる～奉仕の心を育む『地域から愛される学校』

本校は、安全・安心な学校を目指し、環境整備も進めてきました。教室表示も秩父の木を利用し、昇降口の掲示には秩父の花や木、秩父銘仙等を取り入れました。秩父の温かさの中で自分が「生きているんだ」と実感でき、郷土に感謝できる、そんな郷土愛の心を育むことはいじめの防止につながるものと考えています。秩父市で実施している各町会の防災訓練にも積極的に参加したり、学区内の小学生の登校時に「出前あいさつ運動」を実施したりして、地域とのふれあいを積極的に実施しています。また、秩父宮記念市民会館と秩父市役所本庁舎の開館記念式典や秩父鉄道SL運行30周年記念行事で合唱部が演奏させていただきました。夏には毎年、秩父神社や秩父公園橋の清掃など、奉仕活動にも多数の生徒が参加しています。本校は、地域に貢献することで『地域から愛される学校』を目指しています。



いじめ撲滅宣言

二中生のスマホのルール

生徒ISS委員会

時間・管理

- ・夜9時以降は電源をきる。
- ・勉強中は携帯電話・スマホを触らない。
- ・使用しないときは親に預ける。
- ・フィルタリングをかける。
- ・自転車に乗りながら、スマホやケータイを使用しない。

モラル

- ・悪口やうわさ話、個人情報などを書き込まない。
- ・相手の立場になって考え、撮影した画像などは勝手に使わない。
- ・本当に大切なことは、携帯電話やスマートフォンを通してではなく会って伝える。

お金

- ・有料サイトなど使う場合は保護者の了解を得る。
- ・毎月の利用料金明細書を保護者と確認する。

「どうとどける『サイバー・ネット空間の子どもの安全』」



菅野 泰彦

全国読売防犯協力会 専任講師
日本市民安全学会会員

1. とどける要点

2009 年から 8 年間、全国の小中高生・保護者・教員のべ 10 万人にサイバー・ネット空間の安心・安全について伝えて参りました。

この 500 回余りの講演の中では、これからの時代を担う子供たちが今の大人たちには全く想像もつかない科学技術基盤の上で人間らしく幸せな人生を送れる様、周囲の大人が IT を使える・使えないに関わらず、伝えるべき道德観・倫理観を自覚させて・躰をして・教育していかなければならないことを唱えて参りました。

2. とどける難しさ

全国 3 万の学校、2000 万人の未成年、3000 万人の保護者、100 万人の教育関係者が北海道から沖縄まで広く存在し、毎年 8% ずつ連続更新される中、私の 8 年間の活動が果たしてどれだけの方々にとどいたか？自問する毎日です。このことは政府（NISC・内閣府・経済産業省・文部科学省・総務省・消費者庁・警察庁）および独立行政法人・関連団体・業界団体・企業の SCR 活動を通じて広く行われている講演活動をとってもさほど変わるものではありません。

交通安全になぞらえてサイバーセキュリティ普及啓発を推進しますが、実際に命に関わることではない・目に見えないことから、交通安全教室の様な緊張感をもって普及しないという問題もあります。実際には命や身体・心・財産に関わる損失問題であるにも関わらず、普及啓発当事者側にも確信がないのかも知れません。

3. とどけ方 改革

従来型の、中央から地方へ・有識者から一般人へという流れに加え、新たな取り組みとして、草の根活動・自走型の施策を検討・実施し始めています。

秩父でのスピーチでは、その一端をお話したいと思います。

SC の安全安心を地域と次世代に届ける(再認証を顧みて)



～自治会単位のきめ細かい SC 安全安心活動等～

向山 静雄

箕輪町 SC 推進協議会アドバイザー
長野県警察・心の伝承官
日本市民安全学会会員

1. 再認証を終えて

(1) 経過

箕輪町 SC は、取組みから「地域の絆、協働、継続」をキーワードとして平成 24 年初認証、平成 29 年再認証となりました。再認証に向けては意識高揚・取組み拡大のため

- ・平成 26 年認証取得日を「箕輪町安全安心の日」と宣言、毎年安全安心の日の集い開催
- ・平成 27 年共通共感テーマ「あいさつで広げよう地域の絆」設定、活動推進補助金制度創設
- ・平成 28 年度箕輪町第 5 次振興計画・箕輪チャレンジに「世界に誇るセーフコミュニティのまち、安全安心チャレンジ」設定(17 チャレンジ)

等を展開し、再認証には地区の取組みが大きく評価されました。

(2) 再認証に係る課題

- ・「見える化」、若年層の無関心対策(27 年アンケート認知度 48.4% 関心度 58.3%)
- ・国際認証の必要性和費用対効果⇒費用の削減と認証式典の簡素化

2. 箕輪町の地域活動

(1) 現状

全町展開方針と支援の年 20 万円累計 100 万円の推進補助金制度等により、15 自治会中 6 自治会に推進協議会設置、3 地区をモデル地区、連絡会設置。(地域特性・主体性から町事業の推進モデルではなく、町と連携して地区独自の事業推進のモデル地区)

(2) 課題

- ・人口の多い地区に未設置⇒何が課題かを把握する委員会からと助言
- ・自治会長(区長)の考えにより取組みが大きく左右される。自治会長任期は 1 年。
(地区 SC 会長は、区長 2、区長又は区長経験者 1、区長委嘱 2、互選で区長 1)

3. 住民主導のあの方についての思考

(1) 行政と住民サイドの観点の違い

行政⇒使命感

住民⇒常に安全安心を考える環境になし⇒必要な時、できることから

(2) 環境

地震・洪水等の頻発の他、ごく身近な安全安心への脅威があり、継続取組みは必要

(3) あり方

行政⇒情報提供と財政的支援を主眼に

住民⇒安全安心の取組みが触れ合いの場になり存在感存在⇒住民リーダーの存在

第4部 全大会報告

1 全体報告会と討論

日本市民安全学会会長（モデレーター） 石附 弘氏

テーマ 「セーフコミュニティ（SC）で『つながる』『はぐくむ』『とどける』
安全・安心のかたち」

・ 特別講演者および3分科会座長から、それぞれ論点・内容紹介

・ 討 論

・ 日本セーフコミュニティ推進機構からのコメント 白石 陽子氏

2 閉会のご挨拶に代えて（総括）

京都産業大学名誉教授 藤岡 一郎氏

（日本市民安全学会副会長）

■資料 秩父市セーフコミュニティとセーフスクールの概要

セーフコミュニティとは

セーフコミュニティとは、世界保健機関（WHO）が推奨する国際認証制度です。

「ケガや事故は偶然に起こるものではなく、予防することができる」という理念のもと、科学的なデータに基づく「プログラム」と、地域・行政・警察・家庭・学校などの「横断的な連携」を組み合わせ、事故・犯罪、災害、自殺等の予防に積極的に取り組む活動です。



< 関連する主なデータ >

- ① 人口動態統計
- ② 労働災害データ
- ③ 警察統計（交通・犯罪・山岳）
- ④ 救急搬送データ
- ⑤ 学校災害給付請求データ
- ⑥ 市立病院外傷記録

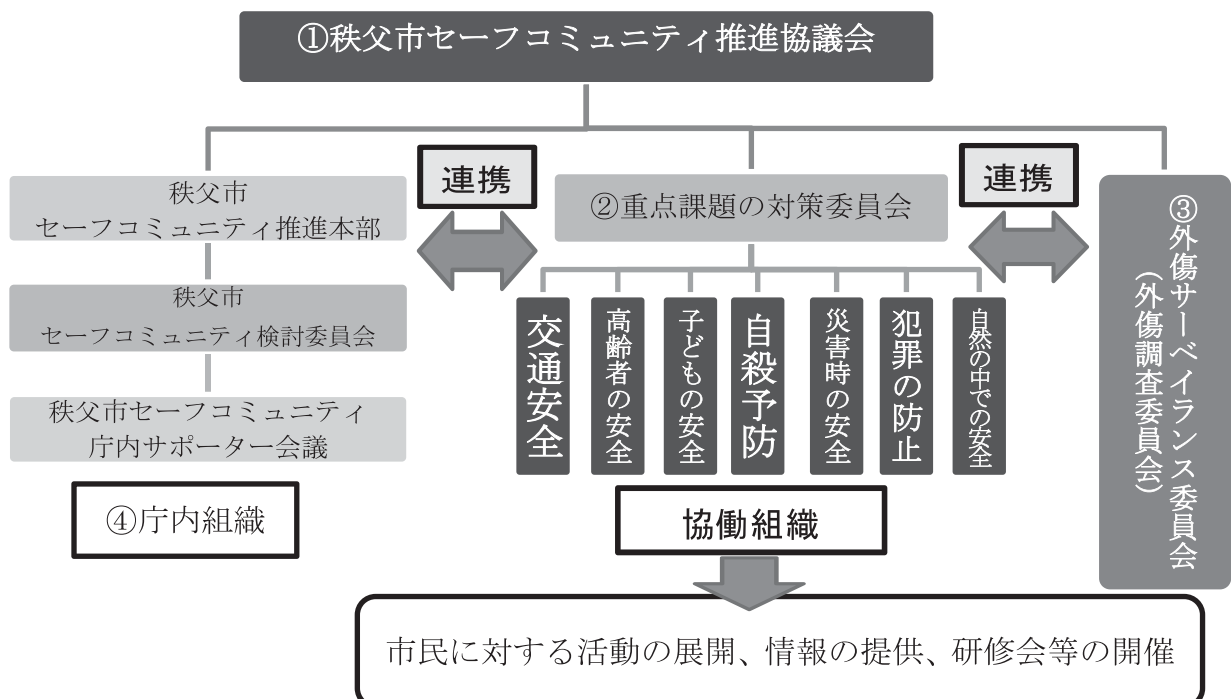
セーフコミュニティは、新しく特別なことをするのではなく、現在の活動に

- ① 科学的な分析による「予防」
- ② 横断的な「連携・協働」

のふたつの観点をプラスします。

セーフコミュニティ推進体制

分野横断的な協働・連携の仕組み」として、①秩父市セーフコミュニティ推進協議会、②7つの重点課題の対策委員会、③外傷サーベイランス委員会を設置しました。そして、市役所内に「④庁内推進組織」を設け、各部課が組織を超えて横断的に連携しながら協力し合い、セーフコミュニティ活動を推進しております。



セーフコミュニティ推進協議会

秩父市セーフコミュニティ推進協議会は、市長を会長に、町会長協議会長、地域振興センター所長を副会長とし、秩父市内で安全・安心に関わる37団体の長にご参加いただき、委員48名で構成しています。主な役割としては、セーフコミュニティ推進に関する、「基本方針の決定」、「活動の推進と情報共有」、「活動の普及・啓発」等を担っています。

セーフコミュニティ対策委員会

秩父市セーフコミュニティ対策委員会は、「交通安全」、「高齢者の安全」、「子どもの安全」、「自殺予防」、「犯罪の防止」、「災害時の安全」、「自然の中での安全」という7つの重点課題に対応するために設置いたしました。委員の構成は、町会、民生・児童委員、警察、消防職員、市職員等、様々な団体から御参加いただき、10名～19名で構成されます。問題を解決するための具体的な取組を企画・実践し、またそれを短期的に評価する役割を担っています。7つの対策委員会においてデータ分析に基づいたよりレベルの高い取り組みを行っています。

7つの対策委員会	主な取組
交通安全対策委員会	交通安全教室、自転車ヘルメット及び反射材の着用・促進ほか
犯罪の防止対策委員会	防犯パトロール、自宅の鍵かけ運動、街頭キャンペーンの実施ほか
高齢者の安全対策委員会	転倒予防（茶トレ）講習会の開催、サロン活動の推進ほか
子どもの安全対策委員会	いじめ防止対策の推進、リズム遊び（体幹トレーニング）の導入ほか
災害時の安全対策委員会	避難計画図の作成支援、避難行動要支援者制度の推進ほか
自然の中での安全対策委員会	安全登山啓発キャンペーン、農林機具事故防止パンフレットの配布など
自殺予防対策委員会	橋等への自殺予防標語入り看板の設置、自殺予防フォーラムの開催など



安全登山啓発キャンペーン



防犯パトロールの周知



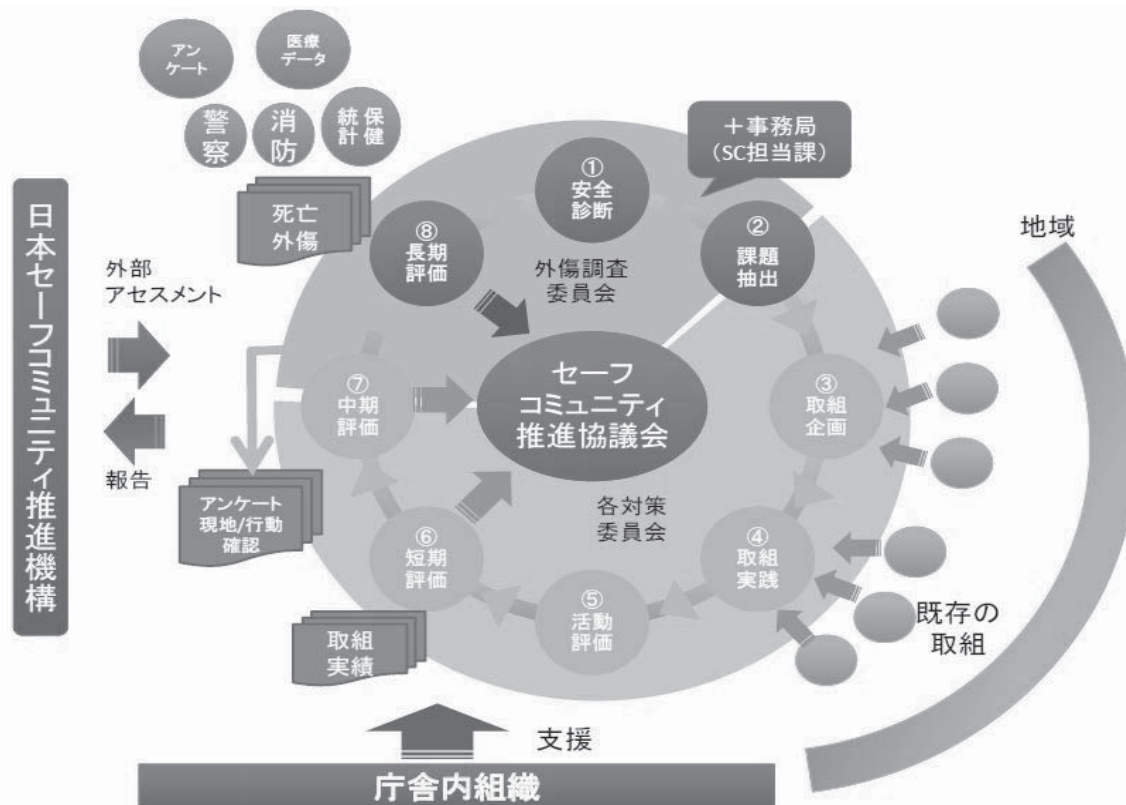
自殺予防標語入り看板設置

外傷サーベイランス委員会

秩父市外傷サーベイランス委員会は、主な役割として、①対策委員会の取組みに対する助言やデータの収集・提供、②予防活動の成果指標についての検証、③活動に関する情報の提供などです。委員会の構成は、地元医師会の医師を委員長として、研究機関の専門家、市立病院の診療情報管理士、外傷のデータを提供していただいている保健所・警察・消防、総合的な調整をいただく日本セーフコミュニティ推進機構など、委員9名で構成されています。

取り組みの効果を評価・測定する仕組み

セーフコミュニティの活動にあたっては、日本セーフコミュニティ推進機構の指導のもと、安全診断から始まり、取組の企画・実践、取組みの評価・改善、そして継続的な安全診断といったPDC Aサイクルをまわし、常に効果的な取り組みを行っています。



インターナショナルセーフスクールとは

体や心のケガ及びその原因となる事故やいじめ、暴力を予防することで、安全・安心な学校づくりを進める活動で、秩父市では、インターナショナルセーフスクールの活動を推奨しています。

現在、秩父第二中学校区（花の木小学校・南小学校・秩父第二中学校）で国際認証を取得しており、児童・生徒が中心となり、世界基準での安全・安心な学校づくりが行われています。

花の木小学校



I S S 集会

南小学校



I S S 活動報告

秩父第二中学校



いじめ撲滅宣言

秩父市セーフコミュニティ（SC）のあゆみ

○平成24年 9月 セーフコミュニティ取組宣言

- ・ 7つの対策委員会を立ち上げ、取り組みを開始

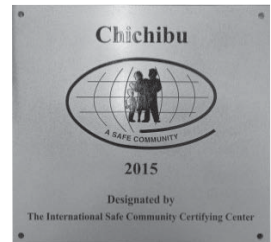
○平成27年 6月 認証取得に向けての現地審査を実施

- ・ 約2年間の活動期間を経て、海外（WHO セーフコミュニティ協働センター）の審査員による現地審査を実施

○平成27年11月 セーフコミュニティ認証



認証合意書と盾



○平成28年 3月 セーフコミュニティ推進条例の制定

- ・ 将来にわたり、安全で安心なまちで在り続けるために、議会が先頭にたって、共助によるまちづくりを一層強力に推進することを決意し、条例を制定

※平成32年の再認証に向けて、更なる安全・安心なまちづくりを目指してまいります

インターナショナルセーフスクール（ISS）のあゆみ

○平成25年 7月 セーフスクール取組宣言

- ・ 秩父第二中学校区（花の木小学校・南小学校・秩父第二中学校）にて、取り組みを開始

○平成27年11月 認証取得に向けての現地審査を実施

- ・ 約2年間の活動期間を経て、海外（WHO セーフコミュニティ協働センター）の審査員による現地審査を各校にて実施

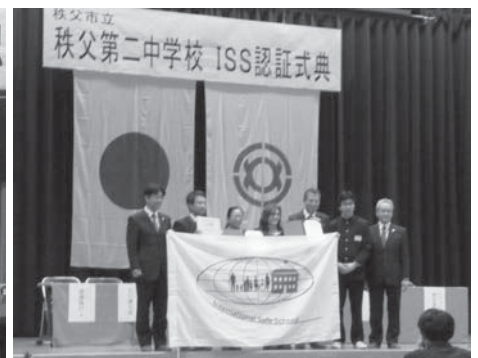
○平成27年12月 セーフスクール認証



花の木小学校認証式典



南小学校認証式典



秩父第二中学校認証式典

■資料

日本市民安全学会のあゆみ（2017.10.10現在）						
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2004 (平成16年)	4	25	総会	創設、創設総会	新規役員、創設趣意、事業計画、予算案等	東京都 文京区
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2005 (平成17年)	1	29	総会 大会	平成16年度 総会 第1回 千葉県柏大会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 多様性が育む地域の力	千葉県 柏市
	7	9	特別イベント	平成17年度 第1弾 シンポジウム	子どもの防犯シンポジウム「通学路における子どもの安全確保」	神奈川県 厚木市
	11	5		平成17年度 第2弾シンポジウム	子どもの安全確保学術交流シンポジウム「私たちは今、何をなすべきか」	神奈川県 川崎市
	11	26	総会 大会	平成17年度 総会 第2回 群馬県安中大会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 水とこどもの安全	群馬県 安中市
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2006 (平成18年)	11	11	総会 大会	平成18年度 総会 第3回 神奈川県厚木大会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 こどもの目・おとなの目	神奈川県 厚木市
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2007 (平成19年)	5	20	総会	平成19年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆宣言「ルネッサンス宣言2007」	神奈川県 横浜市
	5	27	オープン カレッジ	第1期 市民安全学オープンカレッジ ～歌舞伎町ルネッサンス塾～「繁華街歌舞伎町に学ぶ“市民の安全”」	第1回 「歌舞伎町ルネッサンス協議会の発足の経緯と施策内容」	東京都 新宿区
	6	24			第2回 「繁華街における“市民の安全”」	
	7	15			第3回 「繁華街対策における警察の役割」	
	9	16			第4回 「繁華街対策と“市民の安全”のための連携方策」	
	10	21			第5回 「繁華街の“市民の安全”：われわれは何をすべきか」	
	11	16	大会	第4回 大阪堺大会	大切な街、大切な人、だから安全・安心まちづくり	大阪府 堺市
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2008 (平成20年)	5	18	総会	平成20年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「子どもを犯罪被害からどう守るか」	埼玉県 戸田市
	6	15	オープン カレッジ	第2期 市民安全学オープンカレッジ 「“情報空間”の“危険と安全”を考える！」	第1回目 「振り込み詐欺から高齢者を守る詐欺犯罪の構造と市民の安全」	東京都 新宿区
	7	20			第2回目 「インターネット時代の子どもの安全を守る～携帯電話の落とし穴」	
	9	21			第3回目 「サイバー空間の少年被害の実態と安全対策」	
	10	27	西日本	第1回 西日本地区研修会	最近の活動報告	大阪府 大阪市
	10	19	オープン カレッジ	第2期市民安全学 オープンカレッジ	第4回目 「子どもの危険回避のためのHPや携帯等の効果的活用法」	東京都 新宿区
	11	16			第5回目 「安全情報の効果的伝達手法」	
	12	12	大会関連	大会前夜祭	戸田夜まち歩き	埼玉県 戸田市
	12	13	大会	第5回 埼玉県戸田大会	子どもと高齢者にやさしいまちの設計とは	戸田市
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2009 (平成21年)	4	11	西日本	第2回 西日本地区研修会	最近の活動報告	大阪府 大阪市
	4	12	特別イベント	平成21年度 第1弾特別視察	登美丘地区防犯委員会	大阪府 堺市
	5	13		平成21年度 第2弾 特別視察	戸田市立芦原小学校	埼玉県 戸田市
	5	17	総会	平成21年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「コミュニティにおける“市民協働”と“予防安全”」	神奈川県 横浜市
	6	21	オープン カレッジ	第3期市民安全学オープンカレッジ 「世界基準の安全・安心なまちづくり “セーフコミュニティ入門”」	第1回目「夢と夢・人と人を繋ぐ“セーフコミュニティ”の魅力」ほか	
	7	12			第2回目 「“セーフコミュニティ”の目指す市民協働とは」ほか	
	9	24	特別イベント	平成21年度 第3弾 特別視察	横須賀米海軍基地視察とアメリカ式火災予防プログラム	神奈川県 横須賀市
	10	31	大会関連	事前事業	横浜ツアー	神奈川県 横浜市

2009 (平成21年)	11	1	大会	第6回 神奈川県横浜大会	子どもの安全から地域の安全へ、そして社会の安全へ	神奈川県 横浜市
-----------------	----	---	----	--------------	--------------------------	-------------

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2010 (平成22年)	5	16	総会	平成22年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「セーフコミュニティで市民協働まちづくり」	神奈川県 厚木市
	6	20	オープン カレッジ	第4期市民安全学オープンカレッジ 「セーフコミュニティおもしろ講座“あつぎ熱”」	第1回目 「“科学の目”と力がコミュニティの夢と夢・人と人を繋ぐ」	
	7	11			第2回目 「生活現場に根ざした発想と地域安心・安全資源の活用(セーフコミュニティの魅力)」	
	8	1	西日本	第3回 西日本地区研修会	最近の活動報告	京都府 京都市
	9	12	オープンカレッジ	第4期市民安全学オープンカレッジ	第3回目 「安心・安全ネットワークの創造(セーフコミュニティの魅力)」	神奈川県 厚木市
	10	4	特別イベント	平成22年度 第1弾 特別勉強会	不安と危険の時代を駆け抜けて	
	11	18	大会関連	事前事業	あつぎツアー	
	11	19	大会	第7回 神奈川県厚木大会	夢と夢・人と人を繋ぐ“セーフコミュニティ”	東京都 豊島区
	12	19	特別イベント	平成22年度 第2弾 特別勉強会	心の安全基地	

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2011 (平成23年)	1	16	特別イベント	平成22年度 第3弾 特別勉強会	超高齢化社会における安全・安心	東京都 豊島区
	4	17		平成23年度 第1弾 特別勉強会	東日本大震災をめぐる課題Ⅰ	
	4	23		平成23年度 第2弾 特別視察	北須磨団地自治会	兵庫県 神戸市
	5	15	総会	平成23年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「3.11 大震災と市民安全の課題」	東京都 豊島区
			特別イベント	平成23年度 第3弾特別勉強会	東日本大震災をめぐる課題Ⅱ	東京都 豊島区
	6	11	大会	第8回 東京都豊島大会	“セーフコミュニティの力”それは人のつながりから	
	6	12	大会関連	関連事業	江戸ツアー	
			オープン カレッジ	第5期 市民安全学オープンカレッジ 「としま塾」 「大切な健康と安全・安心：“セーフコミュニティ”の創造のために」	第1回目 「目から鱗“大人が気付かない子どもの危険”」	
	7	10			第2回目 「高齢者問題から長寿社会建設へ向けて」	
	7	30	西日本	第4回 西日本地区研修会	東日本大震災に学ぶ “私たちの安全・安心”	大阪府 堺市
	7	31		西日本研修会関連事業	堺ツアー	
	9	11	オープン カレッジ	第5期 市民安全学オープンカレッジ 「としま塾」 「大切な健康と安全・安心：“セーフコミュニティ”の創造のために」	第3回目 「今、手づくりの安全安心“みち普請”が面白い」	東京都 豊島区
	10	16			第4回目 「“安全安心のオアシス”まちづくり」	
	12	18			第5回目 「“セーフコミュニティ”は何故、面白いのか？」	東京都 世田谷区

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2012 (平成24年)	1	15	特別イベント	平成23年度 第5弾 特別勉強会	江戸しぐさ入門：ひとづくり・まちづくり・江戸の知恵	東京都 世田谷区
	3	18		平成23年度 第6弾特別視察	更生保護法人「両全会」	東京都 渋谷区
	5	20	総会	平成24年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「地域安全安心ボランティアの育成方策」	東京都 豊島区
	7	21	西日本	第5回 西日本地区研修会	これからのコミュニティデザインと市民・住民が担うまちづくり	兵庫県 神戸市
	8	19	オープン カレッジ	第6期 市民安全学オープンカレッジ 「命の危機管理」とセーフコミュニティデザイン」	第1回目 「防災とセーフコミュニティデザイン」	東京都 豊島区
	9	9			第2回目 「高齢者とセーフコミュニティデザイン」	
	9	29	大会	第9回 長野県小諸大会	強めよう地域の“絆！”高めよう市民の“安全・安心の質！”	長野県 小諸市
	9	30	大会関連	関連事業	小諸ツアー	長野県 小諸市
	10	8	特別イベント	平成24年度 第1弾 特別勉強会	普通救急講習と横須賀米海軍基地視察	神奈川県 横須賀市
			オープン カレッジ	第6期 市民安全学オープンカレッジ 「としま塾パートⅡ」 「命の危機管理」とセーフコミュニティデザイン」	第4回目 「科学の力とセーフコミュニティデザイン」	東京都 豊島区
	11	18			第5回目 「“セーフコミュニティ”とコミュニティデザイン」	

2012 (平成24年)	12	16	特別イベント	平成24年度 第2弾 特別勉強会	「コミュニティの合意形成手順とファシリテーションングラッ フィック」	東京都 世田谷区
-----------------	----	----	--------	---------------------	---------------------------------------	-------------

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2013 (平成25年)	1	27	特別イベント	平成24年度 第3弾特別勉強会	絆事業シンポジウム 「私たちの“まち”の“これからを創 る！”」	東京都 世田谷区
	3	17		平成24年度 第4弾 特別勉強会	「世代・団体・行政区を越えた合同活動」神奈川県警察の 活動紹介	
	4	4		平成25年度 第1弾 特別視察	東京湾岸防災模範高層マンション「なぎさニュータウン」	東京都 江戸川区
	4	21		平成25年度 第2弾特別勉強会	日本財団の青色パト事業について	東京都 豊島区
	5	19	総会	平成25年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「データ時代における市民の安全」	
	6	16	オープン カレッジ	第7期 市民安全学オープンカレッジ 「としま塾パートⅢ・健康・安全・安心 “命の危機管理”とその処方箋」	第1回目 目から鱗「思いがあればコミュニティが変わ る！」	
	7	21			第2回目 身近な「事件・事故の死角」の見つけ方と対処 法	京都府 京都市
	8	10	西日本	第6回 西日本地区研修会	「むすび＆わざ」と「まちの安全＆市民の安全」	
		11		関連行事	比叡山こころの特別研修会	
	9	8	オープン カレッジ	第7期 市民安全学オープンカレッジ 「としま塾パートⅢ・健康・安全・安心 “命の危機管理”とその処方箋」	第3回目 手作りのコミュニティづくりが安全・安心の礎	
	10	6			第4回目 「子どもの安全・安心空間の質の向上を！」	
	11	10			第5回目 「命の危機管理」とその処方箋	
	12	15	特別イベント	平成25年度 第3弾 特別勉強会	『ユニークな開放的ゲートッド・コミュニティの実現を目指 して』	東京都 世田谷区

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2014 (平成26年)	1	19	特別イベント	平成25年度 第4弾 特別勉強会	新春「生活安全」フォーラム 消費者としての知識を磨こう～高度詐欺犯罪暗躍社会を生 き抜くために～	東京都 世田谷区
	2	22	大会	第10回 亀岡創設10周年記念大会	「セーフコミュニティで創るこれからの安全・安心」～危機 への備えは、タフでしなやかな安全・安心まちづくりから～	京都府 亀岡市
		23	大会関連	関連事業	亀岡ツアー	
	3	21		平成25年度 第6弾 特別勉強会	浦安防犯サミット	千葉県 浦安市
	4	20	特別イベント	平成26年度第1弾 特別勉強会	東日本地区SC・ISS推進自治体とRISTEX総合実装プ ロジェクトとの意見交換会 「SC・ISSの推進に係る科学的根拠に基づいた安全計画 の実施に向けて」	東京都 千代田区
	5	11	総会	平成26年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「人が人を育てるとは？」	東京都 豊島区
	6	15	特別イベント	平成26年度 第2弾 特別勉強会	「JKお散歩」を知らずして、子供の安全を語れない！専門 家が語る子供のこころの叫びの変遷とこれからの子ども の世界の行方」	
	7	13		平成26年度 第3弾 特別勉強会	秩父市セーフコミュニティ推進支援特別企画セーフコミュ ニティ市民フォーラム「セーフコミュニティの原点と理念、 地域の安全のこれから」	埼玉県 秩父市
		14		関連事業	秩父ツアー	
	10	4	大会	第11回東日本(浦安)大会	市民安全安心フォーラムin浦安2014 「ひとつに未来輝くまちづくり」	千葉県 浦安市
		5	大会関連	関連事業	浦安ツアー	
		19	特別イベント	平成26年度 第4弾 特別勉強会	防災モデルマンションとは？～ソフィアスティア自主防 災会における防災訓練の計画と訓練のコツ	神奈川県 横須賀市
	11	29	西日本	第7回 西日本地区研修会	堺市民安全・安心フォーラム 「“ありがとう”が育むこころの絆、絆が育む地域の安全」	大阪府 堺市
	11	30	大会関連	関連事業	世界遺産記念高野山の歴史文化ツアー	和歌山県 高野山

年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2015 (平成27年)	1	18	特別イベント	平成26年度 第5弾 特別勉強会	防犯パトロール フォーラム 「親の子育て・地域の子育て」	東京都 世田谷区
	3	8	オープン カレッジ	第8期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」「危険と安全」の境界「市 民生活危険学」のすすめ！	第1回目 「危険と安全の境界」を考える	東京都 千代田区
	4	19			第2回目 世界基準の安全まちづくりセーフコミュニティ	

2015 (平成27年)	5	17	総会	平成27年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演「まちは生き物(黄金町復活の秘訣)」	神奈川県 横浜市
	6	21	オープン カレッジ	第8期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」	第3回目 超高齢社会における「人・社会・まち」モデル	東京都 千代田区
	7	31	西日本	第8回 西日本地区研修会	100年の時を刻む奈良少年刑務所見学の見学及び少年 立ち直り教育について	奈良県 奈良市
	8	1		関連事業	奈良歴史ツアー	
	9	13	特別イベント	平成27年度 第2弾 特別勉強会	秩父市セーフコミュニティ推進支援特別企画セーフコミュ ニティ市民フォーラム	埼玉県 秩父市
		14		関連事業	秩父ツアー	
	10	25	オープン カレッジ	第8期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」	第4回目 サイバー社会と向き合い、生き抜くために	東京都 千代田区
	11	14	大会	第12回厚木大会	安心・安全フォーラム2015inあつぎ 「地域の安心・安全の質の向上を目指して」	神奈川県 厚木市
		15	特別イベント	平成27年度 第3弾 特別視察	秩父市セーフコミュニティ認証式及び関連事業	埼玉県 秩父市
	12	13		平成27年度 第4弾 特別視察	豊島区役所新庁舎	東京都 豊島区
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2016 (平成28年)	1	17	大会	第13回世田谷大会	《世田谷区“子どもの安全”を考える公開フォーラム》～ 子どもの「安全と危険」の境界～	東京都 世田谷区
	3	13	特別イベント	平成27年度 第5弾 特別勉強会	シニアステージの市民安全のかたち～高齢者の健康・安 全をめぐる基本問題	千葉県 浦安市
	4	17	オープン カレッジ	第9期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」	第1回 見えざる防災危機への対応	東京都 千代田区
	5	15	総会	平成28年度 総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演 その時私は、地下鉄サリン事件の現場にい た！～被害の残忍非道さ、決して癒されることのない事件 を体験して～	東京都 豊島区
	6	19	オープン カレッジ	第9期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」	第2回 見えざる高齢者の危機への対応	東京都 千代田区
	7	30	西日本	第9回 西日本地区研修会	・防犯カメラの活用を中心に―自治体との連携について ・築城400年 大阪城域の防犯環境～大阪城に秘められた セキュリティ・システム	大阪府 大阪市
		31		関連行事	大阪城歴史ツアー 大阪城に秘められたセキュリティ・シ ステム	
	9	11	オープン カレッジ	第9期 市民安全学オープンカレッジ 「ちよだ塾」 「健康・安全・安心の“夢”を“かたち” に！」	第3回 見えざる子どもの危機への対応	東京都 千代田区
	10	16			第4回 見えざるこころの危機への対応	東京都 千代田区
	11	20			第5回 見えざるもののコントロール	東京都 千代田区
	12	18			ALL SECOM ショールーム 視察	東京都 渋谷区
年	月	日	区 分	内 容	テーマ等	開催地
2017 (平成29年)	1	15	特別イベント	平成28年度 第2弾 特別勉強会	迫りくる大危機時代と市民安全レジリエンス ～知識から実践へ さあ、一步を歩き始めよう！ 実践講座：「大危機『認知症』と向き合う」	東京都 江戸川区
	3	12		平成28年度 第3弾 特別勉強会	安全・安心プロジェクトin浦安塾2016	千葉県 浦安市
	4	16	特別イベント	平成29年度 第1弾 特別勉強会	「福祉と防災」コミュニティづくり	東京都 千代田区
	5	27	総会	平成29年度総会	事業報告・事業計画、決算報告・予算案等 ☆記念講演 迫りくる大危機時代と『レジリエンス』子どもの 教育	千代田区 日本大学
	6	11	特別イベント	平成29年度 第2弾 特別視察	特別企画「神奈川県瀬谷地区モデルコミュニティ現場視 察」文化財を活用した、世代を超えての安全安心モミュ ニティづくりの秘訣とは(チャンス逃がさない、仲間づくり、 その原点にあるもの)」	神奈川県 横浜市
	7	1	特別イベント	平成29年度 第3弾 特別視察	「第48回交通安全こども自転車神奈川大会」及び 「第6回交通安全高齢者自転車神奈川大会」視察	神奈川県 横浜市
		15	大会	第14回富山大会	世代を超えて富山の安全・安心を考える！ ～環境・安 全・安心・健康・暮らしからのアプローチ～	富山県 富山市
		16	大会関連	関連事業	大会関連事業	
	11	25	大会	第15回秩父大会	SCで「つながる」『はぐくむ』とどける『安全・安心のかたち	埼玉県 秩父市
		26	大会関連	関連事業	大会関連事業	

表紙デザイン

桜田 秀美 日本市民安全学会理事／D&D スタジオ

市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ

セーフコミュニティ（SC）で
『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち
第15回日本市民安全学会 平成29年大会
大会抄録集

編集発行
監修

秩父市セーフコミュニティ推進協議会、秩父市
日本市民安全学会

印刷

有限会社 萩原印刷



セーフコミュニティ[SC]で
『つながる』『はぐくむ』『とどける』
安全・安心のかたち

